ライオン誌10月号 2005年（平成17年）9月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第48巻第4号

IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International

October 2005

10

THEME ユース・キャンプ
PICK UP 男女共同参画
ROAR 332複合地区

第48巻第4号

We Serve

CONTENTS

■国際会長メッセージ 4

■THEME 6
●ユース・キャンプ
7月22〜31日まで、335-B地区主催の国際ユース・キャンプが開催された。世界各国から約40人の青少年が参加。広島の原爆資料館、高野山を訪れたり、茶道や居合抜に挑戦。元気いっぱいのYE生たちに本誌編集部が密着取材。

■国際理事だより 11
●山田實紘

■PICK UP ●ライオンズにおける男女共同参画 12
331複合地区（北海道）で活躍する3人の女性会員に集まって頂き、ライオンズクラブにおける男女共同参画を考える。

■ライオンズ・ニュース・カセット 16
●330-A地区アカデミー賞受賞祝賀会
●ハリケーン被災者へLCIFを通じ支援を
●LCIFセミナー開催予定
●世界のライオンズ会員数トップ5
●日本の女性会員数、7,000人を超える
●ライオンズ - クエスト・フォローアップワークショップ
BOX COLUMN
●国際理事会会議決議事項要約
●会議録

●日本ライオンズクラブ　クラブ数・会員数集計 21

■クラブ・リポート ●イラスト:篠田和夫 22
岐阜南　養護施設児童、カブトムシの幼虫採集
山形県鶴岡、埼玉県加須　災害時支援の覚書調印
青森まほろば　「短歌ふれあい学習」で奉仕に新しい風
愛知県名古屋ウエスト　ロボットサッカーで国際交流
兵庫県神戸兵庫シティ　さあ、夢に向けて出発だ
鳥取　6中学へ非行防止パネル
336-A地区第3リジョン第2ゾーン 源平合戦・史跡案内モニュメントを寄贈
宮城県仙台五城　身体障害者70人をプロ野球観戦に招待
337-D地区第1リジョン第3ゾーン　高校生ら、薬物乱用防止訴える

表紙メモ
日本の風景
山形
山寺（立石寺）
写真：編集部
デザイン：内田誠治

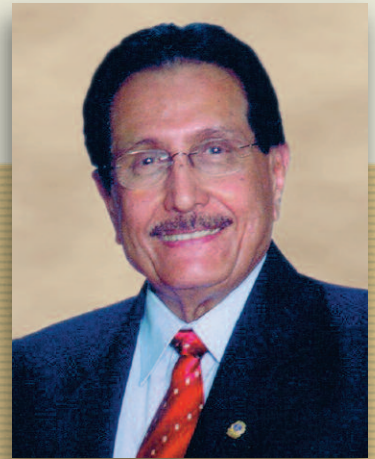
■ROAR〜まるごと332複合地区 27
■ヘッドライン ●青森県黒石烏城 28
■トピックス ●青森県むつみらい 30
●岩手 31
●宮城県仙台コア・グループ 32
●福島県石川シニア 33
●山形県天童舞鶴、天童もみじ 34
●秋田県本荘 35
■ふるさと探訪 339 ●宮城県仙台 36
10月7日から10日まで、日本では7年ぶりに開催される東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラムの舞台・仙台を訪ねる。市内の観光スポットを巡回するレトロバス「るーぷる仙台」に乗って、仙台城址や瑞鳳殿、杜の都のシンボル・定禅寺通などを歩く。仙台名物のずんだ餅や牛タンなどのグルメ、また堤焼、堤人形、松川だるまなど、伝統的な工芸も紹介する。
●イラストマップ:小川和政

■歴史の舞台 3 ●岩手県宮古 ●切画:風祭竜二 40
■表紙シリーズ：日本の風景 21 ●山形・山寺（立石寺） 42

■LCIFスタディ・ツアー案内 43
■ミッション30 44
■参加型フォーラムへの試金石 ミニ・フォーラム 46
■獅子吼 ●イラスト:小川和政 48
ライオン歴45年とボクの歩いた160カ国　厚沢弘陳
一隅への挑戦　燕昇司信夫
龍馬の精神でウィ・サーブ　竹崎誠
科学の進歩と私たちの進むべき道　浅岡吉治
■俳壇 ●選:森澄雄 53
■歌壇 ●選:春日真木子 54
■柳壇 ●選:大木俊秀 55
■READERS PLAZA 56
■クロスワードパズル 58
■グラスいっぱいの幸せ 4 59
●文:植村力子 ●イラスト:吉田悦子
■こころのチキンスープ・ライオンズ編 60
●構成:青山研 ●イラスト:吉田悦子
■MY BEST SHOT ●選:河相正名 62
■LIONS GALLERY ●張晶 63
■Editor's Room ●読者プレゼント ●次号予告 65
■編集室 66
●中田勝昭

INTERNATIONAL PRESIDENT'S MESSAGE

国際会長メッセージ

2005-06年度国際会長
アショク・メータ
Ashok Mehta

指導への情熱

Passion to Lead

ライオンズクラブは地域社会と国際社会の要請にこたえ、九十年近くにわたって輝かしい奉仕の歴史を打ち立ててきました。私たちが空前の成功を達成することが出来たのは、何よりも会員を導いてきた指導者の功績によるものです。指導力は奉仕の質を決定します。指導力の育成には適切な訓練が不可欠です。私はこのような観点から、クラブ役員と地区役員のトレーニングを本年度の重点課題に掲げています。

多くの会員は、ライオンズの紋章のイメージを世界的に高めることが出来るよう、仲間の能力の向上に手を貸したいと願っています。彼らの指導への情熱にこたえるため、国際協会は大規模な指導力育成トレーニングによって知識や教育を提供しています。指導・教育に自信や意欲を感じている皆さんは、ライオンズ・リーダーシップ研究会、MERL委員長セミナー、オンラインの学習センターなどを活用し、自らの技能を高めてください。こうした機会は有能な指導者を生み出し、クラブの焦点を明確にするでしょう。あらゆるトレーニングは本年度のテーマ「飛躍への情熱」に沿って進められ、その究極の目的は地域社会への奉仕を強化することにあります。

例えば新会員に効果的なオリエンテーションを提供することは、クラブの指導者の最も重要な責務です。残念ながら退会してしまう会員の大半は、入会後三年以内にその決断を下しています。彼らも入会時には、会員とし

《飛躍への情熱》

て大いに貢献したいという意欲に満ちていたはずです。しかし、業務や友情を分かち合う機会が与えられなければ、こうした意欲を持続することは出来ません。地域社会に対するクラブの影響力は、多くの場合会員維持によって決定されます。したがって、退会は当人のみならず、地域社会全体にとっての損失となるのです。クラブ会長と役員は強力な指導力を発揮して、このような事態を何としても回避しなければなりません。

私たちは指導力を最大限に高めることを目的として、常に必要な手段の立案と強化に取り組んできました。妥協を許さぬ指導への情熱と献身があったからこそ、ライオンズは世界最大かつ最も活動的な奉仕クラブ組織へと成長を遂げることが出来たのです。国際協会では、指導的な役割を果たしたいと願うあらゆる会員のために、さまざまなプログラムを用意しています。クラブと地区の役員は、会員がこうした機会を得て技能を伸ばすことが出来るよう、最善を尽くして支援する義務を負います。会員の多くは指導力育成の機会を歓迎するはずであり、クラブ会長はそのことを一瞬たりとも疑ってはなりません。彼らは今後数年のうちに、クラブがそれぞれの伝統を継続しつつ、更なる飛躍を実現出来るよう手を貸してくれることになるでしょう。

クラブと地区の指導者には、もう一つの重大な責務があります。国際協会に属するあらゆるライオンズクラブは、会員を動機づける不可欠な要素として、表彰の芸術を実践しなければなりません。表彰には、仲間が自分の努力、貢献、成果を認めてくれていると、個々の会員に認識させる効果があります。その結果、彼らは地域社会に惜しみない奉仕を続けることが出来るのです。感謝の表明にはアワードを活用してもよいし、心の込もった「ありがとう」の言葉だけで十分な場合もあるでしょう。会員は表彰を受けることで誇りと情熱を高め、「ウィ・サーブ」の理念をますます熱心に追求しようとするはずです。

「おれについてこい」という意気込みだけでは、効果的に会員を導くことは出来ません。計画、激励、適切な実例の提示、支援、機会の提供、表彰など、指導力を発揮するにはさまざまな技能や方法が必要です。こうしたあらゆる手段を自ら実践すると同時に、クラブや地区の方針にも盛り込むべきです。指導力の育成を通して、私たちは着実に「飛躍への情熱」を高めることが出来るでしょう。

2005年香港国際大会期間中の6月29日に開催されたアカデミー賞授賞式で、年間最優秀ライオンに輝いたライオン Qing-Feng Chen。日本の330-A地区（東京都）は、年間最優秀地区に選ばれた

ライオンズの世界的な表彰イベントに、国際アカデミー賞があります。二〇〇六年度アカデミー賞に、会員、クラブ、地区、後援者、事業計画またはプログラムを推薦してください。申請は〇五年十二月三十一日まで受け付けています。詳細及び推薦用紙は、国際協会の公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）に掲載されています。

335-B地区
YE生40人の日本を学ぶ旅
国際ユースキャンプ

移動はほとんどバスである

335・B地区（大阪・和歌山）主催の第二十四回国際ユース・キャンプが、七月二十二日から十日間にわたって開かれ、二十八の国と地域から来日したYE生三十八人が参加した。広島や高野山などを巡り、日本の歴史や文化を学びながら、YE生同士の交流を深めて国際性を養ってもらうのが狙いだ。

日本で唯一開催されている国際ユース・キャンプとはどんなものなのか？　同行してその現状を見た。

「はやく寝なさい」まるで修学旅行だ

「もう十一時だから寝なさい」

キャンプ初日、大阪市立長居ユースホステルの大部屋で、布団に寝転がって話し込んでいるYE生たちに、YE委員が声を掛けた。YE生は「おやすみ」と言ってふすまを閉めたが、おとなしく寝た気配はない。

ホームステイ先では、遠慮がちにしていたYE生だが、キャンプでは周りは同年代ばかり、しかも互いに英語が話せるので、あっという間に仲良くなるのだという。十七歳～二十一歳と若いYE生は毎晩、宿舎のどこかにたむろして話し込む。まれに、夜のデートに出かけたり、飲酒する子もいる。そんなわけで、YE委員は毎晩、宿舎を見回ることになり、寝不足気味。中学か高校の修学旅行を思い起こさせた。

しかし、そんな苦労と表裏一体のやりがいがある。繁田文三前地区YE委員長は「最終日、YE生が泣いて別れを惜しむのがうれしい」と言う。それは、キャンプが育んだ友情の証しだからだ。日根野文三地区YE委員は「ライオンズの活動の中で、肉体的にはしんどいけれど、いちばんおもろい」と言い切る。

YE事業の中核ユース・キャンプ

国際ユース・キャンプは、世界各国の青少年が寝食を共にして、相互理解を目指すもので、YE事業の中核の一つだ。現在、世界三十四カ国で九十四のキャンプが開催されており、中にはフィンランドを帆船で旅するものや、南アフリカの野生動物保護区を歩くものもある。

日本では335・B地区だけが、一九八三年から毎年キャンプを実施している。同地区のキャンプは、我が国が唯一の被爆国であることから、広

かしこまって抹茶を飲むYE生

試し切りに挑戦するも失敗

島を訪れて討論を行うなど平和学習に力を入れている。

企画運営は、キャンプが年度をまたぐ大事業であることから、新旧の地区YE委員計二十四人のほか、日本から海外に派遣したYEのOB生二十五人があたる。キャンプの費用は、同地区の会員約七千人が、毎月百二十円を拠出して賄っており、総額は九百万円ほどだ。

日本の動と静を学ぶ お茶会と居合抜

キャンプ二日目、同ユースホステルでYE生たちは、お茶会と居合抜を体験、日本の伝統文化に触れた。

まず、大阪ヴィオレット・ライオンズクラブの会員の着付けで浴衣姿に変身した。特に女子YE生は「キモノ」に大はしゃぎだ。茶室では、同クラブの会員が、裏千家流のお点前を披露。YE生たちは、慣れない正座に戸惑いながらも、抹茶を作法に従って飲み、茶碗や茶菓子にも興味深そうに見入っていた。

アノーク・ツィンクルズさん（オランダ・19歳女性）は「単にお茶を飲む儀式ではなく、もっと奥深いものと分かった」と話していた。

次いで体育館、勇進流の剣士二十人が居合抜を披露した。会場には、刀が空を切る「ビュッ」という音が響き、抜刀から納刀までのよどみない一連の動作に、YE生は息をのんで見入っていた。巻藁を使った試し斬りには、YE生たちも挑戦した。キャンプ中も日課の腕立て伏せを欠かさない肉体派、ダニエル・フェリスさん（アメリカ・19歳男性）は、巻藁を鮮やかに一刀両断。「帰国したら絶対に居合抜を習う」と興奮気味に話していた。

第24回日本国際ユースキャンプ日程
2005年7月22日～7月31日

	研修・活動内容
1日目	**大阪**
	7/22　オリエンテーション・歓迎パーティー
2日目	**大阪**
	7/23　お茶会と居合抜体験・納涼例会参加
3日目	**大阪**
	7/24　USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）見学
4日目	**大阪**
	7/25　ダイハツ本社工場見学・天神祭見学
5日目	**大阪→広島**
	7/26　姫路城見学・広島の高校生との交流会
6日目	**広島→大阪**
	7/27　平和記念資料館見学・平和討論会
7日目	**大阪→高野山**
	7/28　高野山見学・数珠作り体・宿坊宿泊
8日目	**高野山→南紀白浜**
	7/29　海水浴
9日目	**南紀白浜→大阪**
	7/30　白浜アドベンチャーワールド見学
10日目	**大阪**
	7/31　お別れパーティー

納涼例会に参加 ローアは日本だけ?

居合抜の後、YE生たちは市内のホテルで開かれた大阪阿倍野ライオンズクラブと大阪帝陵ライオンズクラブの合同納涼例会に参加した。例会には、地元の府立高校三校から生徒三十九人も招かれ、YE生との交流会も行われた。YE生たちは母国の歴史や文化を紹介し、一緒にゲームなどを楽しみながら交流を深めた。

将来、留学を考えている阿倍野高校の梅木静さんは「英語を試すいい機会になった」と話す。

また、天王寺高校の北尾秀司教諭は「今年も定員の倍以上の参加希望があった。今後もぜひ続けてほしい」と期待を寄せていた。

最後に、ローアが行われたが、こ

れを行っている国はほとんどないらしく、YE生には奇妙に映ったようだ。また、海外のクラブの例会に比べて、日本のそれは「とてもフォーマル」との声が多く聞かれた。

余談だが、YE生に日本人の印象を聞くと、礼儀正しい、親切、寛大など、何だか気恥ずかしくなるような言葉が返ってきた。「歩くスピードが速くていい」（マレーシア・20歳男性）という人も。日本の短所は蒸し暑さがダントツだった。そのほか、「タバコを吸う人が多い」（オーストリア・18歳男性）、「道や家が狭い」（アメリカ・17歳女性）、「母親ばかり家事をしている」（アメリカ・17歳女性）などの指摘があった。

広島の高校生、原爆の悲惨さを訴える

キャンプ四日目、一行は大阪からバスで広島に移動した。途中、世界遺産の姫路城を見学する予定だったが、バスが故障するハプニングが発生。時間の都合により、YE生たちは城内に入れなかった。「失望した。大阪城の方がカラフルでよかった」とウィム・ディリックさん（ベルギー・17歳男性）。

広島のホテルでは、広島市立舟入高校の生徒四十八人を招いて交流会が催され、同校の生徒たちが原爆の恐ろしさを訴えるプレゼンテーションを行った。YE生たちは、スクリーンに映し出される原爆投下直後の写真や、被爆者が描いた絵を見つめ、真剣な表情で説明に聞き入った。あまりのむごさに、泣きながら会場の外に出てしまう女子YE生もいた。

アンナカイサ・ピエテライエンさん（フィンランド・18歳女性）は、「ナチのユダヤ人虐殺については詳しく習ったが、広島についてはあまり知らなかった。プレゼンテーションを見てとても悲しくなった」と感想を話していた。

その後は雰囲気が一変、同校の生徒とYE生たちは、食事を楽しみな

納涼例会後、買い出しに立ち寄ったコンビニで

イベント後に打ち合わせをするOB生たち

セバスチャン・コンジェルニクさん

ポーランド　19歳

日本のテクノロジーと文化に興味があり、日本に来ることは夢でした。ポーランドでは『ポケモン』や『セラームーン』、『ヤッターマン』など、日本のアニメが子どもの間で人気なんですよ。

来日前の日本のイメージは、ハイテクと人口過密です。愛知万博に行ったのですが、実際、その通りでした。

日本人の長所は親切で礼儀正しいこと。例えば、電車を待つ時に列を作って待ちますよね。短所を強いて言えば、蒸し暑さと英語が通じにくいことかな。日本人は英語の読み書きは出来るのに、会話は苦手みたいですね。ポーランドでは、小学校から英語を習います。

現在、イギリスの工科大学でロボット工学を専攻しています。だから自動車工場見学はとても面白かった。卒業したら日本で働いてみたいですね。

ファタマ・テゥンチュさん

トルコ　18歳

トルコでは科学技術の進歩と共に伝統文化が消え、ライフスタイルも変わりつつあります。でも、日本は世界一の科学技術を持ちながら、伝統文化やライフスタイルを守っているでしょ。それをよく見たかった。

驚いたのは、空港で初めてホスト・ファミリーに会った時。お辞儀という習慣を知らなくて、頬にあいさつのキスしようとしたら、お祖母さんが後ずさりするの。「一体何が起こったの？」って動転したわ。

キャンプでは、広島の発展ぶりが印象的でした。「75年は草木も生えない」と言われていたのに、日本人は本当によくがんばったと思います。

今、イスタンブールの大学で、統計学を学んでいます。将来は、そうねえ、会社社長よ。大きな机の向こうから、いすにふんぞり返って指図するの（笑）。

が交流を深め、会場は笑い声に包まれた。カメラ付き携帯電話で記念撮影する姿も見られた。女子高生にモテモテだったマティアス・マルティネスさん（スウェーデン・18歳男性）は「若い日本の人たちと触れ合えてとても楽しかった」とのこと。

翌日、YE生たちは平和記念資料館や原爆ドームを見学。資料館では、被爆者の遺品や写真、被爆者の証言ビデオなどに見入っていた。

ローレン・トーマスさん（アメリカ・19歳女性）は「被爆者の黒く変形した爪を見て、たくさんの人が亡くなったことを実感した。帰国したらここで見たことをみんなに伝えるつもり」と話していた。

日根野(ライオン)は「（核兵器の使用は）人類としてやったらあかん、いうことを教えなあかん」と話している。

OB生にとっては「運動部の夏合宿」

最も忙しいのは、キャンプ運営の実務を担当するOB生である。大阪を離れてキャンプに同行出来るOB生は、予算の都合で六人だけだ。イベントの裏方のほか、通訳やYE生の相談相手も務める。毎晩、YE委員との打ち合わせや反省会などで、一日の睡眠時間は五時間を切る。

OB生で京都教育大学二年生の宮下万登香さんは、「これだけの人数を、しかも英語を使って、まとめるのは大変。忙しいけれど、教師になるのに役立つと思う」と話す。

キャンプはOB生にとって、「運動部の夏合宿」といったところだ。

YE生、高野山で仏教の世界に浸る

キャンプ七日目、一行は世界遺産の高野山を訪れた。ハードスケジュールと暑さでバテ気味だったYE生たちも高地の涼しさにほっとした様子。スイス出身の僧侶クルト厳蔵さんの案内で、弘法大師廟や金剛峰寺などを巡った。

広島の高校生たちと記念撮影

キャンプ一行。広島平和記念公園で

マティアス・マルティネスさん
スウェーデン　18歳

日本は伝統や文化をよく保っていて魅力的。英語の案内標識を増やせば、もっと外国人観光客が増えると思う。日本人はちょっと恥ずかしがりですね、特にお年寄りは。ホスト・ブラザーと銭湯に行ったけど、僕が湯船に入ったら、お年寄りがみんな外に出ちゃった。話をしたいのに、悲しいです。僕のことが怖いのかなあ。もっとも、自分も人前で裸になるのが恥ずかしくて困ったのだけど。

甲子園へ阪神タイガースの応援にも行った。僕も風船を飛ばしたよ、あれは面白かった。

英語は小学校から習います。８歳からです。毎週25語ずつ暗記して、テストされました。小国が国際競争に生き残るには、英語が必要なんです。

大学は薬学部に進もうと思っています。新薬の開発をして、人の役に立ちたいと思っています。

アヌラダ・アパジ・クンバールさん
インド　17歳

日本は地理的には小さいけど、世界に大きな影響を与えていることに興味を感じていました。例えば、日本の製品や経営手法は世界中に広まっていますよね。ちなみに、私もソニーのビデオカメラを持って来ています。

日本の文化とインドのそれは、似ていると思います。カルチャーショックはあまり感じませんでした。日本の長所は時間に対する正確さと、高齢者が自立して生活していることでしょうか。

原爆資料館の展示はショッキングで、気分が悪くなってしまいました。悲劇を繰り返さないために、多くの人が広島を訪れて、そこで起こったことをよく知るべきだと思います。

将来は弁護士になるつもりです。人々のために不正義と戦いたい、と思っています。

宿泊先の宿坊でYE生たちは、数珠作りに挑戦。職人の指導を受けながら玉を磨き、二時間ほどで数珠を完成させた。カエリ・ウィンさん（エストニア・19歳女性）は「おみやげ以上のものが出来た」と満足げ。

YE生たちは、精進料理を食べ、朝のお勤め（読経）にも参加、仏教の世界に浸った。

涙、涙のお別れパーティー

南紀白浜で海水浴などを楽しんだYE生たちは、大阪に戻ってお別れパーティーに臨んだ。YE生たちは、写真を撮ったり、メール・アドレスを交換したりして名残を惜しみ、十年後に大阪での再会を誓い合った。泣きながら抱き合う姿も多く見られ、YE委員とOB生たちは達成感に浸りながら、その様子を見守っていた。

「キャンプ中、いろいろ面白いイベントがあったけど、ここで出会った仲間は兄弟姉妹のようで、私にとってはそれが最も重要」

そうローレン・トーマスさん（アメリカ・19歳女性）が話していたのを目の当たりにする思いだった。

圦(ゆり)明弘地区YE委員長は、「参加人数を増やし、期間も長くして、より充実したキャンプにしてゆきたい」と今後の抱負を話していた。

僧侶のクルトさんを囲んで「仏教問答」するYE生

南紀白浜で記念に貝殻を拾う

海外ユースキャンプ2005参加レポート

334-A地区　青本有加さん

エストニア（7/3〜8/3）

キャンプ初日、他の子の語学力の高さに、とてもショックを受けました。キャンプでは、みんなが楽しめ、親しくなれるような多くの企画がありましたが、特に印象に残ったのがサイクリングとお別れパーティーです。

サイクリングは、20キロ以上の悪路を励まし合って何とか完走しました。お別れパーティーでは、ダンスが行われたのですが、ロシアとギリシャの子たちはダンスを踊るという習慣があまりないらしく、私たち日本も含めてみんなのノリノリさにとても驚いてしまいました。

このキャンプに限らず、ホームステイも含めて学んだことは、積極性と自分の意見をはっきり言うことの大切さです。キャンプはたくさんの人がいるので積極性がないと、みんなに乗り遅れてしまいます。

航空関係の仕事に就きたいと漠然と考えていましたが、今回、世界の空港や機内で働く人たちを見て「やっぱりこれだ」と自分の夢をしっかり確認することが出来ました。

334-C地区　栗原舞さん

スイス（7/15〜8/16）

私が参加したキャンプには、約20カ国から30人が集まりました。キャンプでは、ほぼ毎日、バスに乗ってどこかへ出かけていました。美術館へ行ったり、ゴルフをしたり、湖で泳いだりと盛りだくさんのプログラムでした。夜もバーへ行ったり、映画を観たりと、とても楽しかったです。

国ごとのプレゼンテーションでは、15分の制限時間を超えて発表する国が多く、中には堂々と50分ぶっ通しで話し続ける国もあり、びっくりしました。それくらい皆自分の国が好きで、誇りに思っているのだと感じました。ちなみに私たち日本人は浴衣を着て、相撲や箸などについて説明しました。キャンプで実感したことは、皆当然のように英語が話せることです。日本人はいちばん話すのが下手だった気がします。もう一つ感じたことは、皆同じ人間だということです。宗教や文化の違いに関係なく、皆一緒に、楽しく過ごせました。この貴重な経験を、さまざまなことに役立てていきたいと思っています。

国際理事だより

■国際理事
山田實紘
（岐阜県・美濃加茂）

クールでタフな面々が揃う委員会に期待膨らむ

香港大会で国際理事に就任後、すぐさま国際本部と連絡を始めるも、Eメールもファクスも電話もつながらない。本部のコンピューターが香港でウイルスを拾ったらしいのです。香港ウイルスには、人インフルエンザ、鳥インフルエンザ等々ありますが、今回はコンピューター。いろいろなウイルスに人間も機械も翻弄される今日です。

私は今回、長期計画委員会と大会委員会に所属することになりました。理事会方針書には、長期計画委員会の目的は「徹底的かつ組織立った研究を通して、協会の運営にかかわる長期的議題を定め、それに対処する決議を理事会に報告する」とあります。

ここで提案される事業は、「全人類の求めにこたえるべく、協会、理事、クラブが挑戦する」「協会の努力とイメージが一層高まるように、組織立っている」「ライオニズム内外の専門家との話し合い及び研究の結果、生み出される」「ライオニズムのほとんどの地域及び文化の中で、実施可能」「決められた一定の期間内に、測りきれる成果が作られる」「国際協会にとって、明確に認識され、理解され、PRの面で協会を有利に映し出す」ものでなければなりません。こうした制約の中で、長期的な計画を検討する委員会です。

送られてきた過去一年間分の議事録を読み、心積もりと下準備を整えて八月七～八日の長期計画委員会に臨みました。メンバーはメータ国際会長、クジアク前国際会長、ロス第一副会長、アマラスリヤ第二副会長、ロブレスキー元国際会長、ホルテット二年理事、それに国際会長の懐刃・アガーワル元国際理事、加えて一年理事の私。まるでライオンズ中枢の奥の院に招かれてしまったようです。

第一回会議は午後一時から五時まで、目まぐるしく時間が進み、あっという間に終了。その後、本部近くのインド人の住宅でメータ会長招宴のホームパーティーとなり、ベジタリアンフードを堪能しました。これもライオンズ流かと感心して好きなワインをおいしく頂き、気をよくしておりましたところが、翌日はたいへんシビアな会議が開催されました。

朝九時から午後五時まで、わずかな休憩と昼食のみで会議が続けられました。あらゆるテーマについて、一つひとつの議題を徹底的にディスカッションするのです。「お前の意見はどうだ」と、一人ひとりに意見が求められます。日本流のだんまりは金輪際通用しません。内容については内部機密のため、理事会を通さないと発表出来ませんが、私が日本ライオンズの皆様にお約束したマニフェストの一つを提案すると、サプライズ・アイデアということで、全員一致で長期計画の一つに取り入れてもらうことが出来ました。

しかし、メンバー全員がほんとうにタフです。私が最年少だと思いますが、午後五時の会議終了宣言でぐったりする間もなく、六時から二時間のディナーを取り、八時からはメータ会長の部屋に再度集合。二次会でもやるのかな、と思っていると、たしかに酒はありますが、ここでもライオンズの将来に関するディスカッションが、なんと午前〇時まで続きました。翌日は朝九時から執行委員会があるというのにです。ライオンズの中枢部は、すごくエネルギッシュでタフな人の集まりであると思い知ったのが実際のところです。

今年の国際会長テーマ、「飛躍への情熱」そのものが、ライオンズであるとのイメージを持って帰国しました。これからがおもしろいと、期待を膨らませている今日です。

ライオンズにおける男女共同参画

北海道で活躍する三人の女性会員に聞く

一九八七年の台北国際大会で国際会則が改正され、それまで男性に限られていた会員資格が変更された。以来、多くの女性がライオンズの門をくぐり、クラブから国際理事会まで、さまざまな場で活躍している。が、女性会員の比率は世界で一四パーセント、日本では六パーセント弱と、まだ十分とは言えない。ここ数年の国際会長も、女性会員増強を重要施策に掲げ、今年度のメータ会長は女性を五万人増やそうと呼び掛けている。そこで、既にライオンズに入会し、活動している三人の女性会員と共に、日本の現状と将来展望について考えてみた。

ライオンズは男性社会?

荒川　現在、ライオン誌日本語版の集計では、日本の女性会員は約七千人で、比率から言うと六パーセント弱となっています。ここ十年ほど会員の減

■座談会出席者
渡部映里子（北海道・札幌わかばライオンズクラブ）
土谷節子（北海道・帯広さくらライオンズクラブ）
石田幸子（北海道・函館臥牛ライオンズクラブ）
■司会
荒川隆志（北海道・室蘭東ライオンズクラブ／ライオン誌日本語版委員長）

少が続いている中で、女性会員が少しずつでも増えているということは評価出来ると思います。が、世界平均から考えると、まだまだ割合は少ないですね。また、女性のリーダーも昨年度、日本で初めて330-C地区から櫻井慧子地区ガバナーが出たとはいえ、後に続く方が出てきません。

そうした現状を踏まえ、今日は皆さんから忌憚のないご意見を伺い、日本ライオンズにおける男女共同参画という問題を考えていきたいと思います。議論に入る前に、まず皆さんの自己紹介を簡単にお願い出来ますか。

Eriko Watanabe

渡部　札幌から参りました渡部映里子と申します。仕事はフリー・アナウンサーで、ライオンズに入会して、この十月で十五年になります。現在は札幌わかばライオンズクラブでPR情報委員長を務めております。

土谷　昨年四月、女性ばかりで結成された帯広さくらライオンズクラブの会長を務めております土谷節子と申します。保険会社で働いております。ライオンズのラの字も分からないまま入会したものですから、会員の皆さんと一緒に勉強しながら、活動を続けているところです。

石田　函館臥牛ライオンズクラブの石田幸子です。クラブは昨年九月に結成されたばかりで、私は初代会長を務めさせて頂いております。ライオンズ歴としては八年になります。三十年ほど前に会社を興し、現在もその経営に携わっています。

荒川　皆さんライオンズ歴も違えば、お仕事も違い、クラブの環境も異なるわけですが、そんな中で、長らく男性社会が続いてきたライオンズクラブという組織への入会を求められ、どのように感じましたか。

渡部　私が入会したのは、台北大会から三年目のことなんですが、男性社会の中に入ったんだという意識はなかったですね。それよりも、フリーランスという職業の自分に声を掛けて頂き、一緒に活動させて頂けたということへの感謝の方が大きかったですね。

土谷　女性の入会が認められて十八年にしかならないということは、入会後に知ったことで、男性社会云々は、私も意識しませんでした。

渡部さん同様、ライオンズという組織の中を知るにつけ、入会させて頂いて名誉なことだと感じています。

石田　私は三十年間、会社を経営してきて、何をするにしても女性の立場が弱いということを身にしみて感じてきました。日本の土壌なんじゃないでしょうか。世の中自体、男性社会ですよね。そう考えると、ライオンズはまだ開かれた社会だと思いますよ。

意識改革は男女限らず必要

荒川　そうですか。皆さんにそう言って頂けると、うれしいですね。しかし、現実には「女性が入会するなら私は退会する」という頑固な人も以前はいました。そのへんの男性の意識ということについて、感じたことを本音で語って頂けますか。

渡部　今おっしゃった「女性が入会するなら辞める」というのは極端にしろ、私が入った当時は、やはり女性の入会に不安があったようですね。ただ、私は女性会員としては札幌で三番目の入会なんですが、前に入会されたお二人が頑張ってくださったおかげで、そうした抵抗感は薄れていたと思います。

土谷　以前、ある地域で、女性の入会をクラブで検討したところ、全員の反対で却下されたこともあったとお聞きしました。帯広さくらライオンズクラブは331・B地区として初めての女性だけのライオンズクラブなんですが、皆さん非常に温かく迎え入れてくださいました。ただ、女性が入会するだけでも難しかったという苦難の歴史をへて、今、私どもがあるんだと思っています。

Setsuko Tsuchiya

荒川　なるほど。それでは、ちょっと視点を変えて、実際にクラブで活動をする上で、女性として気になる点とか、困るようなことはありませんか。

渡部　そうですねえ。黙って職務を遂行している分には、よくやっているね、と言われるのですが、そこで目に付いたことを提言したりすると、ちょっとコツンということはあるかもしれませんね。ですから、日々考えることは、出しゃばらない、と言いますか……（笑）。

荒川　無意識にでも、そう感じさせてしまうのが、男社会の目に見えない問題点だろうと思いますが。

石田　今のクラブはとても理解があるので、そんなことは全くないのですが、先ほども言いましたように、日本の社会そのものには、まだまだ偏見はあるでしょうね。ちょっと意見をしようものなら、女のくせに生意気だ、あるいは大きな声を出すと、ヒステリーと言われたり（笑）。

渡部　男同士ならナアナアで済むことでも、女は本音で生きているので、どうしても許せない部分というのがありますからねえ。

石田　ただ、女性自身にも問題があるんですね。中には社会の一員としての意識が低い人がいます。それは男性から見てどうこうではなく、女性から見ても、もっと自分に責任を持って生きなさいよ、と言いたくなることがあります。ですから、男性の意識だけを問題にするのではなく、そういう女性が多いということも、問題だと思うんです。

渡部　確かにクラブで役職を振られた時、大変だからと断ったりというのは、せっかく対等に見てくれている時に、どうかと思います。女性だからと甘えてはいけないですね。

Sachiko Ishida

女性の感性に対する期待感

荒川　性別に関係なく、人間として責任を持ち、お互いの特徴を生かしながらうまくかみ合っていくのが、いちばんいいんでしょうね。

　ところで、男はアバウトなところがあって、そこに女性の感性が加わることで、ライオンズクラブは更に素晴らしいクラブになれると思うのですが、女性の目には、そういう見方はいかが映りますか。

渡部　女性の感性というのは、これまで特に考えたことはなかったですね。女性が一人入ったからといっても、雰囲気が柔らかくなった程度のことだと思うんです。それが、クラブの中に二人、三人となってくると、少し変わってくるのかなあ、とは思いますが……。

　私のクラブで言いますと、ライオン・レディーの存在が大きいんです。皆さん、アクティビティの手伝いなどを積極的にしてくださるので、女性会員が増えたからどうこうということはあまりないですね。

土谷　私たちのクラブはライオンズの活動や運営を、女性の目で見たらどうなのか、ということで結成された経緯があります。ある意味、地区としては実験的な試みだと思うんです。新しい風が吹くんじゃないかと期待している、と励ましてくださる方もいらっしゃいます。ですから、私どもは女性の観点というものを、しばらくは突き詰めていきたいと思っています。

新しい奉仕のあり方を模索して

荒川　それでは最後に皆さんから見て、ライオンズクラブの現状や今後について、お感じになっていることを教えて頂けますか。

渡部　いちばん感じるのはアクティビティのことです。ライオンズクラブは本当の意味でボランティア団体なのか。例えば障害者の方たちに対する活動に、多くのクラブが取り組んでいます。しかし、かかわり方は中途半端ではないでしょうか。どこまで踏み込むか、その線引きが難しい。ライオンズクラブの奉仕の限界というものが存在するのではないか。そんなふうに考えています。

　その中で、今後、どのような方向に進むのか。私はゾーンやリジョン、あるいは地区という枠も超えて、同じ分野で活動するクラブが情報交換し、ネットワーク化していくことも必要ではないかと思います。

土谷　それは私も感じます。全国に「さくら」の名を冠する女性クラブが五つありまして、全国さくらフォーラムを年一回開催しています。今年は児童虐待がテーマで、ＰＴＡにも呼び掛けパネル・ディスカッションを行いました。ライオンズという組織を飛び出し、地域社会に広く関与していくことも視野に入れ、奉仕の輪を広げることを目指しています。また、帯広市内のクラブでも、共同でやれるものはやっていこうという動きが出ています。

渡部　薬物乱用にしても、今、ライオンズで全国規模のネットワーク作りが進んでいますね。こうした連結型と言いますか、力を合わせて大きなうねりを起こしていくことも必要だと思います。

石田　私も新しい奉仕のあり方を模索する必要性は感じていますが、もう一つ、ライオンズクラブに若い人を増やしていくことも大事だと思っています。レオにしても若いうちからライオニズムを学んでもらうという意味で、非常に大切なアクティビティです。

荒川　私は今、いちばん関心を持っているのが、コーチングということなんです。ライオンズクラブでも、先輩会員の若い会員に対するコーチングが、今後ますます重要になっていくと思っています。

　男性も女性も、また若い会員もベテラン会員も、それぞれの役割をわきまえ、誇りと責任感を持って、それぞれクラブの力になってもらえるといいんですがねえ。そういう意味で、今後の皆さんのご活躍に期待致します。

Takashi Arakawa

NEWS CASSETTE

ライオンズ ニュースカセット

330‐A地区国際アカデミー賞受賞祝賀会

香港国際大会における国際アカデミー賞授賞式で、330‐Ａ地区が年間最優秀地区を獲得した。その受賞を祝う会が、八月十日、東京・新宿の京王プラザホテルで開催された。祝う会には石橋幹雄、伏見龍両国際理事を始め、大久保彦前国際理事、宮田謙一330複合地区議長、野中杏一郎前議長連絡会議世話人など、地区を超えて大勢の会員が出席し、今回の栄誉をたたえた。同地区は昨年度、山浦晟暉地区ガバナーの下、十クラブのエクステンション、朝日新聞と日経新聞への全面広告、また障害者約五百人を東京ディズニーランドに招いて地区内全クラブで介助奉仕を行った「ミッキー愛ランド・ツアー」や、やはり地区を挙げて東京芸術劇場で開催したザ・ハンディキャップ・サポート・コンサートなど、奉仕から運営、ＰＲまでさまざまな部門で多大な成果を収めた。

ハリケーン被災者へＬＣＩＦを通じ支援を

八月二十九日早朝、アメリカ・ルイジアナ州からフロリダ州のメキシコ湾岸地域を直撃した大型ハリケーン「カトリーナ」は甚大な被害を及ぼし、死者数千人に上る大惨事となった。来年七月に予定されている第八十九回国際大会のホスト・シティであるルイジアナ州ニューオーリンズは町の約八〇☒が浸水し、大勢の市民が取り残された。

災害発生から間もなく、国際協会の公式ウェブサイト上では、アショク・メータ国際会長、クレメント・クジアクＬＣＩＦ理事長が相次いで緊急のメッセージを発表。メータ国際会長は、「被災者の皆さん、あなたたちは決して一人ではありません」と呼び掛け、地域社会の再建に向けたライオンズの支援を約束した。また九月一日付けのクジアクＬＣＩＦ理事長のメッセージによると、執行委員会の承認を得て、被災した四つの州の国際理事、元国際理事四人を運営委員に任命。救援活動を円滑に進めるため、ＬＣＩＦと被災地のライオンズ、救援に当たるライオンズの連携を図っている。

ＬＣＩＦは九月一日までに、大災害援助金二十万☒と、ルイジアナ州の三地区（8‐O、

8‐S、8‐I）にそれぞれ災害援助金一万☒を交付した。更に「ハリケーン・カトリーナ災害救援基金(Hurricane Katrina Relief)」の指定口座を設けている。最新情報は、公式ウェブサイトを参照。

LCIFセミナー開催予定

クレメント・クジアクLCIF理事長が来日して開催される今年度のLCIFセミナーは、十一月二十二日、東京で開かれることが決まった。

世界のライオンズ会員数トップ5

二〇〇五年六月末の国際協会集計によると、会員数の多いライオンズ国トップ5はアメリカ（四〇万〇九、〇三一人／一万三、三五〇クラブ）、インド（一三万六、七九六／四、九〇六クラブ）、日本（一二万二、四一三人／三、四二四クラブ）、韓国（七万七、九六七人／一、八七七クラブ）、イタリア（五万六二九八人／一、二四七クラブ）だった。昨年度は上位三位がそれぞれ四？、七？、三？の会員減少。三カ国合計で約三万人の純減となった。健闘が目立ったのはヨーロッパ勢。オランダが六？、スイス五？、ドイツ二？の増加だった。

日本の女性会員数、七千人を超える

ライオン誌日本語版事務所のオンライン報告システム・サバンナ(SavannA)のデータを集計した結果、六月末の日本の女性会員数は、全体の五・七☒、七千四十人で、昨年度末と比べると〇・二☒の増となった。準地区別トップ3は、335‐B地区一〇・四☒、335‐A地区九・八☒、337‐A地区八・八☒。複合地区別では、335複合地区八・二☒、337複合地区六・八☒、331複合地区六・七☒となった。サバンナのデータによる女性会員数集計は今回が初めてだが、サバンナ上の会員管理（名簿）で性別選択を済ませていないクラブもあり、実際の女性会員数は、今回の集計結果を上回るものと思われる。今後、より正確な集計を行うため、全国のクラブにご協力頂きたい（19☒にサバンナの使用状況を掲載）。

地区別の集計結果は、ライオンズクラブ公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「日本のライオンズクラブ」（トップページのバナーをクリック）→「資料」に掲載。毎月更新。

日本で最も会員数の多いクラブは？

ライオン誌の集計（二〇〇五年六月末）によると、日本で最も会員数が多いクラブは、山梨県・南アルプス・ライオンズクラブで百五十三人だった。続く五位までは以下の通り。静岡県・浜松（百四十九人）、群馬県・高崎（百四十八人）、福岡県・田川（百三十七人）、長崎県・諫早センチュリアン（百二十四人）。

330複合地区モンゴル支援委員会に駐日大使から感謝状

七月十日、東京・渋谷区の駐日モンゴル国大使館において、二〇〇四年度330複合地区モンゴル支援委員会へのバトジャルガル特命全権大使及び在日留学生会からの感謝状が、阿戸健次前委員長（330‐C地区元ガバナー）に贈呈された。同委員会はモンゴル大使館と連携し在日留学生会の文化交流活動を支援している。四月には、東京・練馬区の光が丘公園で開かれた留学生主催のモンゴル春の祭りに参加。横綱朝青龍を始めモンゴル出身力士たちも応援に駆け付け、来場者と交流した。また、六月の首都ウランバートルでの年次総会には、中野了モンゴル・コーディネーターと阿戸委員長らが出席し、友好親善に尽くした。

NEWS CASSETTE

ライオンズ・クエスト・ワークショップ

この七、八月中に十回のライオンズ・クエスト・ワークショップが開催され（東京都五回、埼玉県四回、三重県一回）、全国から計三百五十二人が受講した。また、ワークショップを受講したことがある人が対象のフォローアップ・ワークショップも開かれた。

教師ら学校関係者が授業でクエスト・プログラムを使用するためには、この二日間のワークショップを受講することが必要。学期中にはその時間を作ることが難しい人も参加しやすい、夏休みに集中的に開講したもの。この研修でプログラムの内容、授業の進め方などを体験的に学習し、修了時に教材、指導案などが渡さ

ムの最終予算を承認した。
3. 元国際理事の旅行規定に若干の改訂を加えた。
4. 理事会方針書の財務の章に若干の事務処理を行うことを承認した。
5. 理事会方針書の国際本部事務局及び職員の章に若干の事務処理を行うことを承認した。
6. 飛行機を利用しての旅行は、最低14日前までの予約を必要とすることを承認した。
7. インドの財務代理人にフィル・ライターを任命することを承認した。
8. メリーエレン・スケリックに会計の責務を委任することを承認した。

■LCIF
1. タンザニアのLCIF銀行口座を新しい銀行に移す権限を、LCIF部部長代理及びLCIF会計に与えた。
2. LCIFのライオンズ - クエスト課の外部コンサルタントであるSLSとの契約を更新した。
3. 2005-06年度ライオンズ - クエスト諮問委員会のメンバーを決めた。
4. 眼科光学検査並びに糖尿病のプログラムを四大交付金の優先事業として、2006年6月30日まで1年間延長することを決めた。
5. 低視力プログラムを四大交付金の優先事業として、2007年6月30日までの2年間延長することを決めた。
6. ラテン・アメリカでSODIS浄水システム及び衛生活動を行うことに対し、四大交付金40,000⌧を試験的に交付することを承認した。
7. 合計2,886,337⌧に及ぶ62件の一般援助金、四大交付金、国際援助交付金を承認した。
8. 3件の交付金申請書を継続審議事項とし、1件の交付金申請書を却下した。
9. 2004-05年度の用途無指定交付金予算で補えない交付金に関しては、交付金予算積立金の利用を認めた。
10. 執行役員交付金プログラムを企画することを許可した。
11. 視力ファーストIIキャンペーンに関する旅行方針並びに監査規定を、LCIF運営方針書に組み込むことを認めた。

■会員増強委員会
1. 継続性の利点を生かすために、2007-08年度からは、本協会の長期にわたる会員増強プログラムとは別の形で設けられる1年間のみの会員増強活動を年次国際プログラムに含めないことを認めた。
2. 新たにライオンズクラブを結成する権限を、スーダン共和国及びアラブ首長国連邦に与えることを承認した。
3. 2005-06年度中に少なくとも5つの主要都市にある地区で実施される大規模な会員増強キャンペーンに対して、それぞれ最高20,000⌧の交付金を提供する「都市圏会員増強マーケティング・プログラム」を承認した。
4. 会員意見調査プログラムをオンラインにて半期ごとに行うことを承認した。
5. 新クラブ結成を確認する手順を改正した。
6. 101複合地区（スウェーデン）での大規模なライオンズ・イメージ及び会員増強広報キャンペーンを支援するために、15,000⌧の補助金を承認した
7. 年間会員増強プログラムの刷新を承認し、新会員のスポンサーは会長からすぐに表彰されると共に年度末のアワードを新たに設け、クラブ及び地区が任意で利用出来る年間会員勧誘戦略案を提供することを決めた。
8. 理事会方針書に含める複合地区及び地区のMERLチームに関する方針を採択した。

■PR委員会
1. ミッション30リーダーをプロトコールの順位に加えると共に、＊＊＊の記載事項を削除した。

■奉仕事業委員会
1. 「レオの光で子どもたちを照らそう」という国際レオクラブ事業におけるレオクラブ並びにレオの成果をたたえるためのアワードを設けた。
2. 2004-05年度の「ベスト・レオ」を発表した。
3. 国際糖尿病教育プログラム（NDEP）との覚書を承認した。
4. 成功を収めたライオンズクラブ及びレオクラブとの協調関係をたたえるためのバナー・パッチ・アワードを設けた。

れる。

クエスト導入については、学校や市がバックアップ態勢にある例もあるが、まだ少数。多くは個人的な関心から自費で受講し、これから周囲の啓蒙に及ぶ。ライオンズが受講費援助などで関与する余地がある。更にワークショップ招致開催を始め、組織的な支援態勢を確立出来れば、大きな促進力となるはずだ。そのためにもまず、日本ライオンズ全体のクエストに対する理解の底上げが求められる。

??????

????

??

????

?

??

オンラインによるライオン誌用マンスリー報告システム「ServamA（サバンナ）」は、八月分の提出で使用クラブが七三？に達した。前月と比べると二〇？強のアップ。これには、九準地区が報告システムにサバンナを導入したことが寄与している。地区で導入された場合は、ライオン誌は地区の集計データから必要な情報の提供を受けるため、各クラブによるライオン誌へのマンスリー提出は不要になる。また十月からは、ライオン誌が行うアンケートや、クラブからライオン誌への原稿投稿や取材依頼にもサバンナが活用されるようになる。

国際理事会会議の決議事項要約

2005年7月2日～3日　香港

■会則及び付則委員会

1. 315-A2地区（バングラデシュ）の2005-06年度副地区ガバナー選挙に対する抗議は却下された。従って、ライオンスク・モヒウディンを副地区ガバナーとして認めることが決議された。
2. 315-B3地区（バングラデシュ）の2005-06年度副地区ガバナー選挙に対する抗議は却下された。従ってライオンM.A.マティンを副地区ガバナーとして認めることが決議された。
3. 315-B4地区（バングラデシュ）のライオンモッド・カビィア・ウッディン・ブイヤンから提出された副地区ガバナー選挙に対する抗議を却下し、同地区のライオンスリ・パラカシュ・ビスワスから提出されていた副地区ガバナー選挙抗議を支持した。従って、ライオンススリ・パラカシュ・ビスワスを315-B4地区の2005-06年度副地区ガバナーとして認めることが決議された。
4. B-3地区（メキシコ）の副地区ガバナー選挙に対する抗議を支持し、同地区の2005-06年度副地区ガバナー選挙を無効とすることが決議された。従って、同地区の2005-06年度副地区ガバナーは空席となった。
5. 理事会方針書の地区ガバナー及び副地区ガバナーの選挙抗議手順に改訂を加えた。
6. 理事会方針書のエリア・フォーラムの個所に記載されているフォーラム委員会に任命される担当理事の権限並びに責任に関して改訂を加えた。
7. 標準版地区付則第3条4項を改正し、地区ガバナー及び副地区ガバナーの選挙において候補者が1人しかいない場合であっても、当選にあたっては過半数の得票を獲得する必要があることを明確にした。

■大会委員会

1. 国際大会開催地の入札条件である大会会場の最低面積を170,000平方⊠に増やした。
2. 国際大会開催地の入札条件に改訂を加え、提供を公約する部屋数は最低6,000部屋とし、そのうち75⊠は大会会場から半径10⊠以内に、残りの25⊠は半径15⊠以内に確保することを決めた。
3. 大会が開催される2週間前までの個々のホテル予約取り消しに対しては、保証金の払い戻しが受けられることを承認した。
4. 団体（10部屋以上）のホテル予約取り消しに対して保証金の払い戻しが認められる期日を5月1日と定めた。
5. 大会開催地の入札数を毎年制限する権限を、大会委員会に与えた。
6. 大会開催地の選定において、大会委員会の推薦地を入札に含める権限を大会委員会に与えた。

■地区及びクラブ・サービス委員会

1. 誠に遺憾ながら、252クラブ（会員数3,380人）の解散を承認した。
2. 以前の会議で解散を承認したクラブのうち19クラブの解散を取り消し、正クラブに戻した。
3. 2005-06年度の地区ガバナー選挙結果を承認した。また、選挙では選出されなかったが理事会の任命を受けるために所属地区が推薦した2005-06年度地区ガバナーの任命を承認した。
4. キプロス北部にある地区に属さないクラブのコーディネーター・ライオンに、108複合地区（イタリア）のフェデリコ・ステインハウス元協議会議長を任命した。
5. ロシア東部にある地区に属さないクラブのコーディネーター・ライオンに、49複合地区（アメリカ・アラスカ州）のピーター・フッパーテン元協議会議長を任命した。
6. 移行地区の数を減らすための計画を、地区及びクラブ・サービス委員会が最終決定する期日を2005年10月に変更した。
7. 以前に解散したライオンズクラブが、理事会に解散の撤回を求めることが出来るのは、解散後6カ月以内とすることを承認した。

■財務及び本部運営委員会

1. 理事会は余剰金が見込まれる2005-06年度第4四半期の予算見通しを承認した。
2. 理事会は余剰金が見込まれる2005-06年度国際プログラ

新結成／合併／解散／クラブ名称変更

■新結成クラブ

東京フューチャー▼結成順位／三六一一▼六月十五日結成▼谷澤進一会長▼事務局／東京都中野区中央五・三八・一三・A三〇二（〒164・0011）TEL〇三・三三八四・〇二三九▼スポンサー／東京上野東

神奈川県・湘南鎌倉▼結成順位／三六一二▼七月十日結成▼日下部亘男会長▼事務局／神奈川県藤沢市鵠沼海岸二・一・一三（〒251・0037）TEL〇四六六・三〇・五八九一▼スポンサー／330・B地区

神奈川県・相模原シティ▼結成順位／三六一三▼七月二十八日結成▼水野隆弘会長▼事務局／神奈川県相模原市相模原五・九・二（〒229・0031）TEL〇四二・七五二・一三五五▼スポンサー／330・B地区

■合併クラブ（合併前のクラブ名）

東京田園調布（東京城西／東京田園調布）
三重県・鈴鹿中央（鈴鹿中央／鈴鹿リバティ）
兵庫県・神戸兵庫シティ（神戸兵庫／神戸シティ）
愛媛県・内子（内子／五十崎）
宮崎ひむか（宮崎ひむか／宮崎レインボー）
阿賀野（新潟県・水原／安田）

■解散クラブ

東京八王子シティ／埼玉県・加須彩／北海道・北村／宮城県・東松島鳴瀬／茨城県・茨城／茨城県・関城／兵庫県・川西北／福岡県・添田／長崎県・つしま中央（二〇〇五年七月国際理事会で承認）

■クラブ名称変更

青森県・中里→中泊
東京駒沢→東京シティ
愛知県・佐屋立田→愛西
青森県・木造→つがる
高知県・中村→四万十

会議録 8月

主な議題だけをまとめました

日本ライオンズ連絡事務所管理委員会

第六回日本ライオンズ連絡事務所管理委員会は八月八日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①二〇〇四・〇五年度日本ライオンズ連絡事務所会計報告、②二〇〇五・〇六度収支予算書、③会計監査の立会いについて協議した。

ライオン誌日本語版委員会

第二回ライオン誌日本語版委員会は八月二十五日、ライオン誌日本語版事務所で開催され、①二〇〇四年度会計監査報告、②〇四年度編集長計画、③仙台フォーラムにおけるミニ・フォーラム開催、④九月号出来、⑤十月号以降台割と主要記事予定、⑥ウェブサイト更新状況、⑦サバンナ報告状況、⑧その他について協議した。

③は通プログラムを製作し、事前及び当日配布する。

⑦はITアドバイザーによるサバンナのプレゼンテーションほか。

複合地区国際大会委員長連絡会議

第二回複合地区国際大会委員長連絡会議は八月二十六日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、Ⅰ仙台フォーラム①最新日程、②事前登録者数、③ジャパン・レセプション、④国際会長歓迎晩餐会。Ⅱ第八十九回国際大会について協議した。

③は会場が仙台国際センター、開始が十八時半に変更になった。

④は、会場の都合により当初の予定を変更し、一複合地区当たり二十五人でお願いしたい。

複合地区ガバナー協議会議長連絡会議

第二回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議は八月三十日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、Ⅰ①メータ国際会長公式訪問日程、②LCIFセミナー日程、③来日役員対応基準、④仙台フォーラム確認事項、⑤公認プロトコール、⑥各委員会・連絡会議報告、Ⅱ国際役員と議長の懇談①国際会長公式訪問日程、②国際理事の議長連絡会議への出席、③その他について協議した。

Ⅰ②は十一月二十二日東京にて。330複合地区がホスト。Ⅰ⑤は香港国際理事会での変更に基づき各ライオンズが行事を進める。

Ⅱは国際理事による話と、十月九日、仙台フォーラムのミニ・フォーラム分科会として「LCIFとPR」開催を決定。

訃報

ライオン加藤正見（東京赤坂）

九月一日死去、82歳。一九六二年東京千代田ライオンズクラブ、六二年東京赤坂ライオンズクラブチャーター・メンバー。七三年度302E・1地区ガバナー。七九〜八一年国際理事。

日本ライオンズクラブ クラブ数・会員数集計

（2005年7月31日　各地区キャビネット事務局集計）

世界のライオンズ

2005.6.30.国際協会集計	■クラブ数	■会員数	期首からの増減
ライオンズ国または領域　194	45,358	1,323,279	△42,582

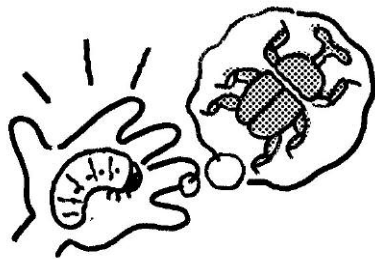
日本のライオンズ

2005.7.31. 各キャビネット事務局集計	■クラブ数	■会員数	期首からの増減
330-A　東京	209	5,669	67
330-B　東京・神奈川・山梨	196	5,947	84
330-C　埼玉	108	3,009	22
330　計	513	14,625	173
331-A　北海道（道央地区）	77	2,932	6
331-B　北海道（道北・道東地区）	101	3,299	27
331-C　北海道（道南地区）	63	2,280	19
331　計	241	8,511	52
332-A　青森	68	2,200	19
332-B　岩手	57	1,940	1
332-C　宮城	85	1,915	19
332-D　福島	81	2,360	27
332-E　山形	56	2,094	13
332-F　秋田	57	1,680	△ 17
332　計	404	12,189	62
333-A　新潟	80	3,029	37
333-B　茨城・栃木	138	4,424	27
333-C　千葉	127	3,596	45
333-D　群馬	55	2,177	33
333　計	400	13,226	142
334-A　愛知	117	6,116	52
334-B　岐阜・三重	89	4,219	32
334-C　静岡	84	3,594	27
334-D　富山・石川・福井	98	4,476	37
334-E　長野	55	2,448	14
334　計	443	20,853	162
335-A　兵庫東	113	3,226	18
335-B　大阪・和歌山	203	7,511	26
335-C　滋賀・京都・奈良	123	4,907	39
335-D　兵庫西	69	2,512	11
335　計	508	18,156	94
336-A　徳島・高知・香川・愛媛	154	6,667	38
336-B　鳥取・岡山	103	4,086	5
336-C　広島	106	4,252	27
336-D　島根・山口	110	4,055	△ 14
336　計	473	19,060	56
337-A　福岡・長崎	118	5,183	55
337-B　大分・宮崎	92	3,140	17
337-C　佐賀・長崎	81	3,288	7
337-D　熊本・鹿児島・沖縄	146	4,805	48
337　計	437	16,416	127
総計	3,419	123,036	868
世界のライオンズの	7.5%	9.3%	

CLUB REPORT クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は56ページをご覧ください。

岐阜南ライオンズクラブ

養護施設児童、カブトムシの幼虫採集

イラスト／篠田和夫

岐阜南ライオンズクラブ（苅谷福充会長（当時）／103人）は五月八日、岐阜市彦坂の雑木林で、関市武芸川町の児童養護施設美谷学園（井上直寛園長）の児童二十四人を招待して、カブトムシの幼虫を採集する自然体験活動を行った。予想を超える大きな幼虫に、児童らは驚きの声を上げていた。

同クラブは同学園の児童と交流を進めるために、今回初めて体験活動を企画。岐阜市安食の造園業玉井一成さんから、所有する空き地を幼虫採集の場として提供を受けた。

児童らがスコップを手に、高さ約一・五メートルの発酵した木片の山を慎重にかき分けると、体長約七センチから十センチほどの大きなカブトムシの幼虫が次々と姿を現した。児童らは「見つけたよ」「大きいなあ」とびっくり。ほとんどが初体験で、容器に幼虫を入れて眺めたり、手のひらに乗せたりして大騒ぎしていた。

一緒に採集した副園長の井上智寛さんは「生き物を育てることの楽しさ、大切さを感じてほしい」と話していた。幼虫は同学園で飼育される。

（『岐阜新聞』5月9日）

（編）幼虫を捕まえた楽しみの次は、育てる楽しみ。サナギになって成虫になる過程の観察は、子どもだけではなく大人をも魅了します。

連絡先→TEL〇五八・二六三・九〇三二

山形県・鶴岡、埼玉県・加須ライオンズクラブ

災害時支援の覚書調印

山形県鶴岡市の鶴岡ライオンズクラブ（伴和香子会長（当時）／45人）と埼玉県加須市の加須ライオンズクラブ（梅沢昌好会長（当時）／33人）が六月十九日、災害が発生した際、お互いに支援し合うことを盛り込んだ「緊急災害時覚書」に調印した。

両クラブは一九九九年に友好クラブ盟約を締結。お互いを訪問するなどし、交流を深めてきた。昨年、国内で集中豪雨や地震などの災害が多発したことから、日ごろから支援態勢を整えていこうと計画した。

鶴岡市湯野浜の愉海亭みやじまで行われた調印式には、両クラブの関係者約二十人が出席。両クラブの会長が「どちらかのクラブが所属する地域で災害が発生した時には出来る限りの友情をもって対応する」などと書かれた覚書に調印した。具体的な支援の内容については、その都度決めていくことにしている。

（『山形新聞』6月21日）

（編）この度の調印は、七月の第二例会で迎えた鶴岡ライオンズクラブの千回例会を記念して行われました。

連絡先→TEL〇二三五・二八・一一二八

青森まほろばライオンズクラブ

「短歌ふれあい学習」で奉仕に新しい風

本年度は会長テーマを「未来を拓く奉仕の創造」とし、青少年指導を柱に活動を開始した。

その一環として、七月二十日に「短歌ふれ合い学習」を実施。対象児童は三年前から交流のある小学六年生五十人である。

短歌と言えば千五百年の歴史のある日本古来の文学。出前授業の短時間で理解してもらえるか不安もあったが、歌人である講師の青少年指導委員長の指導のおかげで、児童らは三十一音に自分の思いを乗せ、指を折りながら次々と作品を完成させていった。

その中の短歌二首を紹介する。

「夏の海みんなとあそびパラダイス見ているばあちゃんにっこり笑う」

「最後までがんばり走る少年の苦労はきっとむくわれるもの」

正直なところ、このような感性を短歌に表現してくれるとは思ってもみなかったので、子どもたちの可能性に感動した。

自分の思いを表現することは、心を豊かにし、生きる力を培うものである。今後も、青少年とふれ合う奉仕活動を通じて、我がクラブに創造という新しい風を吹かせ、活力ある一年間にしたいと考えている。

（会長／齋藤忠幸）

（編）クラブ名の「まほろば」には、「すぐれた所」という意味があるそうですが、今回の活動は、その名にふさわしいものだったと思います。

連絡先→TEL〇一七・七二二・一二二一

愛知県・名古屋ウエスト・ライオンズクラブ

ロボットサッカーで国際交流

国内外の小中学生らが、思い思いに動きを設定したロボットによるサッカー大会が、七月二十七日、愛知万博長久手会場のＥＸＰＯドームで開かれた。

国際交流を目的として名古屋市科学館が主催し、日本、韓国、台湾、シンガポール、フィンランドの子どもたち約百五十人が参加した。

市販のキットを組み立てたロボットは車輪があり、手のひら大。搭載しているマイコンに、ゲームでの動きをそれぞれが設定。

ロボット二台が一チームとなって対戦。相手側のゴールに入れた点数で競う。

全五十チームが参加。出場した岐阜県多治見市精華小六年岩切望さん(12)は「対戦した台湾のチームは強かったです。負けちゃったけど勉強になった」と話していた。

（『中日新聞』7月28日）

（編）二〇〇一年から名古屋ウエスト・ライオンズクラブが協賛してきた「ロボカップ」の集大成とも言うべき大会が、今回、愛知万博で開かれた「ロボカップ世界大会」。当日はサッカーのほかにも、ロボットによるダンスが行われ、大いに盛り上がりました。

連絡先→TEL〇五二・九五九・二八八〇

兵庫県・神戸兵庫シティ・ライオンズクラブ

さあ、夢に向けて出発だ

七月七日は神戸兵庫ライオンズクラブと神戸シティ・ライオンズクラブの合併の第一歩となった記念すべき日である。両クラブは元々仲の良い親子クラブの関係で、今までにもクリスマス会や合同アクティビティなどを行ってきた。この度の合併で、お互いのクラブの特徴・特性を二倍にも三倍にも生かしていきたいと思う。

「神戸兵庫シティ・ライオンズクラブ（梅村健次会長／32人）」としての初めての例会は、何の違和感もなくいつもの例会と同じ、あるいはそれ以上に盛り上がりを見せた。盛り上がりに花を添えたのが、新入会員の入会式。

当日は間に合わなかったが、あと二、三人の新入会員が増えることになっている。会員数の多いことで、いかに例会が盛り上がり、クラブ活性化につながるかがよく分かった。

やむなくクラブを解散し、その結果、退会者や一部のメンバーが親クラブなどに移籍するというケースはこれまでにもよく耳にした。が、合併ということになるとおそらく335-A地区で初めてではないかと思う。しかも、両クラブ共一人の退会者も出さず、それどころか新会員一人プラスで、全員が合意のもとに合併することが出来た。

気分一新、事務所も新しい場所に移転。二クラブが一カ所に入った計算なので、家賃は半分、人件費も半分、光熱費も半分と思わぬメリットが出た。ただ、メンバーだけは倍にしたいものだ。

将来の展望も明るく、周年行事には我がクラブから地区ガバナーを選出する話も出始めている。

（会員理事／阿部信太郎）

（編）既に「ガバナーを選出」を目指すとは頼もしい限り。兵庫県と神戸市を代表するクラブになってほしいと思います。

連絡先→TEL〇七八・三六二・一四八一

鳥取ライオンズクラブ

6中学へ非行防止パネル

「社会を明るくする運動」強調月間にちなみ、鳥取更生保護女性会（山本和子会長）と鳥取ライオンズクラブ（吉田明会長／49人）は七月十三日、鳥取市吉岡温泉町の市立湖南中に、今年の運動の標語を記したパネルと掛け時計を贈った。

パネルは縦約六十センチ、横約三十センチで「差し出す手　心の窓を開く鍵」と書かれている。同中での贈呈式では、山本会長が「非行に走らず、充実した学校生活を送るため、時計を見て時間の大切さを考えてほしい」とあいさつ。吉田会長と共に、時計とパネルを生徒に手渡した。

生徒会長の三年寺岡瞭君（14）は「標語の意味をかみしめ、生徒同士が声を掛け合うよう呼び掛け、明るい学校にしていきたい」と話していた。同女性会と同クラブは今月中に、鳥取市内のほか五中学校に時計とパネルを贈る。

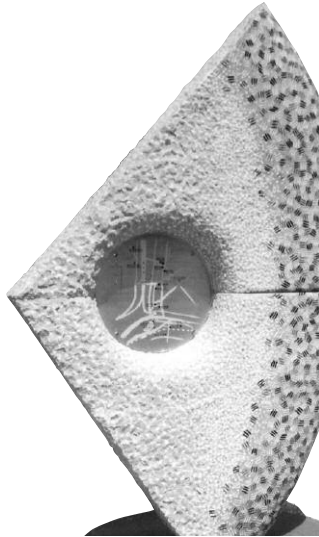
（『読売新聞』7月14日）

（編）生徒の皆さんが毎日目にする時計と標語であってほしいものです。

連絡先→TEL〇八五七・二三・三三三三

336-A地区第3リジョン第2ゾーン

源平合戦・史跡案内モニュメントを寄贈

当ゾーン（高松東、高松西、直島、八栗、高松源平、高松中央）の合同アクティビティは既に十年以上継続している。年ごとに担当クラブの創意と英知が込められた事業が提案され、それぞれの地域で着実にその足跡を残している。

昨年は我がクラブが一九九七年以来となる二度目の担当クラブとなった。翌年の二〇〇五年にはＮＨＫ大河ドラマ「義経」の放映が控えており、源平合戦の舞台のある県下各地で、史跡と地域興し活動が話題となっていた時である。

十月初め、高松市の隣町・牟礼町で、町を母体に町内外の民間人有志による「むれ源平まちづくり協議会」が組織され、源平の史跡保存・整備活動を中心に町並みや景観を整備・保存しようとする活動が進められていた。この協議会から、源平屋島合戦開戦の日までに駒立岩周辺を集中的に整備してほしいとの依頼があった。クラブや協議会と具体的な内容の検討を進めていった結果、地元有力デザイナーに協力してもらい、石で史跡案内を作ることとなった。

三月十九日、牟礼町長を始め、まちづくり協議会、ゾーン内六クラブのメンバー、一般参加者ら総勢二百人の中で序幕式が行われた。石で出来たモニュメントは、那須与一が弓を射る姿がデザインされたおしゃれな案内板として、この日多くの参加者のフラッシュを浴びていた。

（高松源平ライオンズクラブ／石井正志）

（編）波に揺れ動く扇の的を狙い射落とした那須与一が足場を定めたのが、この駒立岩辺りだったと言われています。それまでは案内板もなく、長年放置されていました。

連絡先→TEL〇八七・八四一・六六七七

宮城県・仙台五城ライオンズクラブ

身体障害者70人をプロ野球観戦に招待

スポーツ観戦の機会が少ない障害者にプロ野球を楽しんでもらおうと、仙台五城ライオンズクラブ（渡辺俊弥会長〔当時〕／34人）は六月二十二日、フルキャストスタジアム宮城（仙台市宮城野区）で行われた東北楽天ゴールデンイーグルス対ソフトバンク戦に、身体障害者ら七十人を招待した。

県と仙台市の障害者スポーツ協会会員として、日ごろからスポーツに親しんでいる障害者らが観戦。左翼席に陣取った参加者らはメガホンを打ち鳴らしながら声援を送り、迫力満点のプレーを満喫していた。

利府町の鎌田忠弘さん（51）は、「生の観戦は選手の動きがはっきり見える。とても雰囲気がいい」とにっこり。

渡辺会長は、「選手と一緒に夢を育てていってほしい」と、話していた。

（『河北新報』6月23日）

（編）梅雨の晴れ間に好天に恵まれたこの日は、仙台五城ライオンズクラブの千回例会。試合は四対五で惜しくも地元楽天が敗れましたが、参加者の皆さんは選手たちに惜しみない拍手を送っていたそうです。

連絡先→TEL〇二二・二六二・六六三三

337-D地区第1リジョン第3ゾーン

高校生ら、薬物乱用防止訴える

六月二十六日は「国連麻薬乱用撲滅デー」。平成十七年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動中の二十五、二十六日、大牟田や荒尾玉名地区でも薬物乱用防止キャンペーンが展開された。

有明地区ヤング街頭キャンペーンは二十六日、あらおシティモールであった。

荒尾高校ボランティア同好会、有明高校生徒会、同校インターアクトクラブ、食品衛生協会有明支部、有明地区薬物乱用防止指導員、荒尾、有明、長洲、玉名小代、玉名の各ライオンズクラブ、玉杵名レオクラブと熊本県有明保健所職員ら約百人が参加。リーフレットなど千人分を配布した。

荒尾高校の國武実可さん（三年）がオープニング・スピーチ、有明保健所の梅田静夫衛生環境課長が潮谷義子県知事メッセージを代読。有明高校生徒会長の原口博史君（三年）がキャンペーン宣言をした。同生徒会副会長の城戸辰也君（三年）はウサギの「ラビット君」の着ぐるみを身にまとい、子どもなどにあいきょうを振りまいていた。

（『有明新報』六月二十七日）

（編）一九八七年六月にウィーンで開催された国連の国際麻薬会議がきっかけで、毎年六月二十六日を「国連麻薬乱用撲滅デー」とすることが決まっています。

連絡先（有明ライオンズクラブ）→TEL〇九六八・六九・〇六七八

ヘッドライン：青森県黒石烏城

ふるさと探訪：宮城県仙台

歴史の舞台：山形·山寺

まるごと 332複合地区

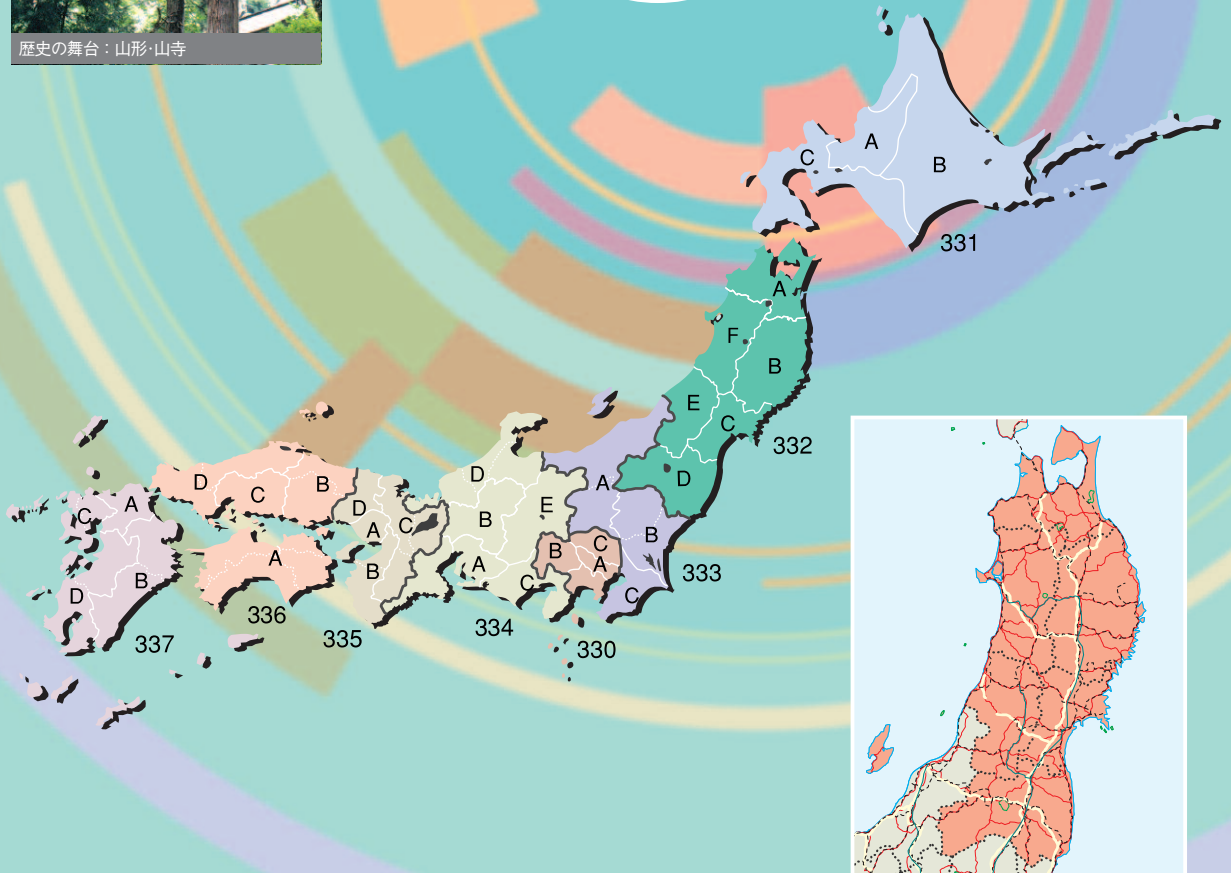
Headline
1. 青森県黒石烏城

Topics
1. 青森県むつみらい
2. 岩手
3. 宮城県仙台コア·グループ
4. 福島県石川シニア
5. 山形県天童舞鶴、天童もみじ
6. 秋田県本荘

ふるさと探訪 宮城県仙台

歴史の舞台 岩手県宮古

日本の風景 山形·山寺(立石寺)

ROAR

結成三十周年を祝して、L字の浴衣が乱舞した黒石よされの夜。

青森県・黒石烏城ライオンズクラブ

■取材／編集部

「エッチャホー、エッチャホー」の掛け声を響かせ、踊りの輪が町を包み込む。約三千人の踊り手が参加する黒石よされは、毎年八月十五、十六日の二日間にわたって開かれる。その中に、L字マーク入りの浴衣をまとった踊り手たちの一団も。黒石烏城ライオンズクラブ（奈良悦雄会長／61人）は祭り当日に浴衣例会を開くのが恒例。今年は結成三十周年を記念して、会員有志が踊りの輪に加わった。

津軽・黒石はリンゴのふるさと。黒石一万石の城下町で、藩政時代に造られた「こみせ」と呼ばれる雪国特有のアーケードが残る。通称「こみせ通り」は古い街並みを町作りに生かし、今年、国の伝統的建造物群に指定された。祭りの夜、こみせの軒下に行灯が灯り、踊り子たちを照らす。

黒石烏城ライオンズクラブは毎年、黒石よされ当日に合わせて八月第二例会を開き、浴衣例会としている。例会場は流し踊りのルート沿いにある会員経営のクラブを貸り切り、終了後は店の前で振る舞い酒を提供して、踊り手たちを激励する。もう三十年近く続くクラブの伝統行事である。

一九七五年、黒石烏城ライオンズクラブは市内で二番目のクラブとして結成。その翌年、黒石よされに合わせてビア・パーティーを開催した。これが今に続く浴衣例会のきっかけと聞く。

今年も、黒石よされ二日目の八月十六日に開催。L字マークの揃いの浴衣姿が集まった会場には、浮き立つような高揚感が漂っている。お祭り好きは、結成当初から受け継がれた黒石烏城ライオンズクラブのDNAだろうか。しかも今年は、来年四月に予定しているクラブ結成三十周年記念式典のPRを兼ねて流し踊りにも参加するので、メンバーたちの意気込みもひとしおだ。

この日は、同じゾーン所属で合同で記念式典を開く尾上ライオンズクラブの小野長道会長、田舎館ライオンズクラブの小山康秀会長らも駆けつけた。

午後六時、奈良会長のゴングでスタートした例会は、いつも通りのプログラムながら、慌ただしく駆け足で進行。ライオンズ・ローアで例会を締めくくった後は、三十周年式典をPRする横断幕を先頭に、メンバー十七人と、応援参加の家族など三十人が一団となってスタンバイ。午後七時、「エッチャホー」の掛け声も威勢良く繰り出した。

流し踊りは「黒石よされ」の唄と三味線の音色に乗って中心街の約一・三㎞のコースを周る。途中、組ごとに輪になって踊る回り踊りでは、沿道の見物客も巻き込んで、軽快な足取りで乱舞に興じる。ライオンズは出だしで張り切り過ぎたせいか、審査員席のある大会本部前に来たところには息切れ気味。密かに目指していた（?）入賞が叶わなか

クラブ三役を筆頭にして軽快な踊りっぷりを披露。
左から、村元会計、奈良会長、桜庭幹事

ったのは、その辺りが原因か。

一方、振る舞い酒担当メンバーは例会場前で、日本酒、ビール、リンゴ・ジュースの用意に大わらわ。汗だくになった踊り手たちが一息ついては戻っていく。流し踊りは九時まで続き、二時間踊り通したクラブ三役は、最後には足下もおぼつかない様子だった。

「同じアホなら踊らにゃ損」とばかり、よされ祭り参加を提案したのは奈良会長。「私が突っ走ったら、幹事と会計がブレーキを踏んでくれるはずが、逆にアクセルを踏まれまして……」と奈良会長。一見してやんちゃそうな（失礼！）桜庭仁幹事と村元幸仁会計に、ブレーキ役を期待する方が無理というもの。ともあれ両者が牽引役となって祭り参加は大成功。これも会長流の若手育成術と見た。

黒石よされが終わると、津軽の地には秋風が吹き始める。黒石烏城ライオンズクラブは、これを弾みにして、今年度、更には次の三十年に向けた新たなステップを踏み出した。

ふるさと下北半島の豊かな自然を守るため、「みらいの森」を育むライオンたち。

青森県・むつみらいライオンズクラブ

■情報提供／港辰弘第一副会長

むつみらいライオンズクラブ（山道秀明会長／14人）のあるむつ市は、下北半島の中心部に位置している。本州最北端、まさかり形の下北半島は、北は津軽海峡、東は太平洋、南は陸奥湾と、豊かな自然に恵まれた地だ。古くからこの地方の有力な財源となってきたヒバ材や、陸奥湾特産のホタテなど、自然の恵みの数々が人の営みを支えてきた。

しかし最近では、河川や陸奥湾の汚れが目立ち、地元の漁業にも影響を及ぼすようになってきた。森林の伐採が進み、周囲の自然がだんだんと侵されていく。ある時、その有り様がクラブ例会で話題に上った。今から八年ほど前のことである。例会での話し合いは、山間部の森林が再生すれば、やがては河川や海がきれいになり、魚が戻ってくるという結論に行き着き、植樹のアクティビティに取り組むことを決定した。

早速、下北森林管理署に相談したところ、国有林内に「むつみらいの森」を提供してもらえることになった。一九九七年から九九年にかけて、この森にはブナの植樹を行った。更に二〇〇〇年からは、下北半島国定公園内の恐山街道沿いに「みらいの森」の提供を受け、毎年ヒバの苗木百本を植樹している。

ブナやヒバの苗木と植樹に使う鍬は、森林管理署が準備してくれる。また、苗木が立派な森林へと育つように、担当官から植樹に関するていねいな指導を受けた。鍬の使い方、苗木を植える穴の掘り方、黒土の掛け方、水のやり方に、最後は土を踏み固めて、苗木が枯れないように枯葉で根元を覆うという作業も教えられた。

今年は六月九日に植樹を行い、会員は大粒の汗をかきながら、穴を掘る人、黒土や水、苗木を運ぶ人と分担を決め、二時間ほどで作業を完了。締めくくりに缶ジュースで水分を補給して、無事に事業を終了した。苗木と鍬は森林管理署が負担し、黒土は会員が無償で提供、水は井戸水をポリタンクに入れて運んでくるので無料。従って、事業費は植樹後に飲む缶ジュース代三千円のみである。

毎年五月に入ると、森林管理署と打ち合わせをし、山の雪解けを待って六月に植樹を行う。わずかな予算で、ふるさとの自然を守る大きなアクティビティが出来る事業に、会員は充実感と喜びを感じている。クラブではこれからも、森林管理署、そして会員の協力のもと、下北半島の山に植樹を続けていきたいと考えている。

Topics トピックス2

子どもたちに巣箱作りを教えて25年。

岩手ライオンズクラブ

■取材／編集部

夏休み中の静かな小学校の一角から、トントン、ギコギコと、ノコギリや金づちの音が響く。子どもたちが慣れない手つきで作ったのは、シジュウカラの「マンション」だった——。

子どもたちに野鳥や森林を大切にする気持ちを育んでもらおうと、岩手ライオンズクラブ（松本芳忠会長／41人）は八月三日、岩手町内の沼宮内小学校で「巣箱作り講習会」を開いた。毎年夏に数回開催しているもので、今年で二十五年目。同じく二十年以上続く春の探鳥会と共に、同クラブ伝統のアクティビティだ。

今回は同小学校の児童や父兄ら十一人が参加、会員十二人が材料と工具を用意して、シジュウカラ用の巣箱を子どもと一緒に作った。

講習会では、『シジュウカラの生活』という絵本を出版したこともある松浦浮男ライオンが、巣箱作りのコツやシジュウカラの生態を説明。一羽あたり年間十二万五千匹の害虫を食べ、森林を守る益鳥であることなどを話した。

その後、子どもたちは、会員のマンツーマンの指導を受けながら、角材をノコギリで切ったり板を金づちで打ったりして、楽しそうに巣箱を組み立てた。仕上げに、ガスバーナーで板の表面を焦がして防腐処理をし、二時間ほどかけて巣箱を完成させた。

春の探鳥会の様子

巣箱は、縦約二十五㌢、横十五㌢、奥行き十五㌢で、三角屋根のコテージ風。出入り口の直径はシジュウカラ用に二・八㌢にしてある。営巣しやすいよう工夫を凝らした設計で、講師を務めた村井清一郎ライオンは「巣箱じゃなくてマンションだよ」と胸を張る。

参加した同校六年の中居永樹君は「釘をまっすぐ打つのが難しかったけど、楽しかった。巣箱はおばあちゃんの山に掛けるつもり」と話していた。

また、同校の太田武邦教頭は「最近の子どもは自然の中で遊ばず、家にこもりがち。巣箱作りが自然と触れ合うきっかけになるはず」と期待を寄せていた。

同クラブでは、この講習会に地元の老人クラブの会員を招いて、高齢者と子どもの世代間交流を図るなど、より意義深いアクティビティになるよう努めている。なお、二十年超という「長寿アクティビティ」の秘訣を、「自然の豊かな岩手町では、環境保全に力を入れる団体が少ないことも一因」と分析していた。

チャレンジ精神を第一義に増殖を続ける仙台コア・グループ。

宮城県・仙台コア・ライオンズクラブ、仙台コア・ガイア・ライオンズクラブ、仙台コア・フロンティア・ライオンズクラブ、仙台コア・ウェーブ・ライオンズクラブ、仙台コア・ライオネスクラブ

■取材／編集部

仙台にコアの名を冠するライオンズが四クラブ、ライオネスが一クラブある。

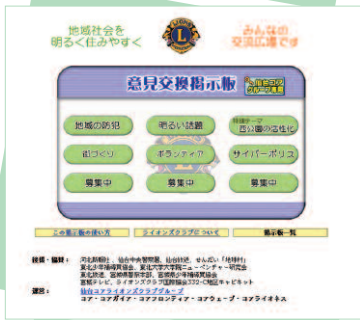
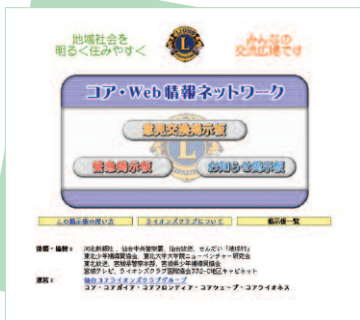
元となる仙台コア・ライオンズクラブ（菊地信夫会長／20人）が結成されたのは二〇〇三年三月。初代会長のライオン秦従道（元地区ガバナー）が、長年温めてきたアイデアを実現させたものだった。

それは、メルビン・ジョーンズが創り上げた、ライオニズムの原点に立ち返ってみようという考えだった。ライオンズクラブが創設された当時は、もちろん前例などなく、全くのゼロからのスタート。シカゴの一ビジネスサークルを、全米的な奉仕団体に変貌させるチャレンジ精神。そんな思いを第一義とするライオンズクラブを作ってみたい。

二〇〇二年七月に地区ガバナーに就任したライオン秦は、夢の実現のため動き、結局、この構想に六十六人の仙台市民が賛同、結成にこぎ着けることが出来た。その後も会員増強は順調に進み、すぐに九十人を超える会員を擁するまでになった。そこで、第二段階としてクラブの分割を実行。それぞれ会長希望者にビジョンを出してもらい、そのビジョンに共感する人たちでグループを作り、四クラブに分割した。更にライオネスクラブも一つ結成し、四クラブと一ライオネスクラブで、単独のゾーンを形成することになった（332・C地区はライオネスをゾーン形成単位として認めている）。仙台コア・ライオンズクラブの結成から一年三カ月、二〇〇四年六月のことだ。

ゾーンを形成したのは、旧体質のクラブの中に入ってはお互いにやりにくい面があろうという配慮からだった。また、今後のアクティビティとして、各クラブがそれぞれ個性を出せる事業を展開すると共に、ニーズによってはゾーンが力を合わせる必要が高まるだろう。そのためには、ゾーンで共通理念を持つ必要がある。そう考えたからだ。

そのため現在、第一例会はそれぞれのクラブで実施しているが、第二例会はゾーン合同で開催。またゾーン・チェアパーソンの下にゾーン幹事、ゾーン会計も置き、クラブ理事会に当たるゾーン会議を定期的に開いて、一つの大きなクラブのように活動している。

今のところクラブとしても、ゾーンとしても、基礎固めに重点が置かれているようだが、今後、どのような形で展開していくのか、大いに気になる存在である。

コア･グループで運営する情報ネットワーク

獅子の分巣。キャリア・ライオンたちが母巣を離れシニアクラブを結成。

福島県・石川シニア・ライオンズクラブ

■情報／矢内芳夫（前会長）

ミツバチの分蜂ならば、外に出るのは若い群。こうして巣の数、群の数を増やすことが種の保存につながる。ここに紹介するのは、親クラブを離れたキャリア組のライオン。二〇〇四年四月、石川ライオンズクラブを出て、東北地方で最初のシニアクラブとなる石川シニア・ライオンズクラブ（鈴木信夫会長）を結成した。

母巣の石川ライオンズクラブは結成三十六年の名門だった。しかし、全国の多くのクラブが抱えている悩みについては、このクラブも例外ではなかった。すなわち、高齢化と会員数減少。

歴史あるクラブを若返らせ活性化を促すにはどうしたらいいだろう。二〇〇三年初めから改革委員会を設置、思い切った大改革を行おうと腹をくくった。結論として、高齢のメンバー十五人が退会することにした。そして新しくシニアクラブを立ち上げよう。

「立つ鳥後を濁さず」。転籍予定の会員らは自分たちが抜けて平均年齢を下げるだけでなく、石川ライオンズクラブに新しい息吹も吹き込んだ。全力で新会員獲得に努め、九人をゲット。以前は「オヤジと一緒にクラブ活動はやりにくいよ」と入会をためらっていた自分の子ども世代や、青年会議所ＯＢを迎え入れることが出来たのだ。

これで安心して石川ライオンズクラブを卒業出来る。次は、シニアクラブとして肩肘張らずムリをしない、新しい楽しいクラブ作りだ。

まず会費を月五千円に抑えた。入会金はなし。これならば、仕事を退職した友人たちも誘いやすい。会員数は二十三人にまで増えた。皆、年齢が近いのでコミュニケーションが取りやすい。例会の出席率は優秀。例会後は必ず飲み会になり、話が弾んだ。

「ライオンズの例会は毎月二回って決まってるの？　三回開いちゃいけないのかな。こんなに楽しいのに」。シニアクラブになってから、新しく入ったメンバーの言。

アクティビティは今も親子クラブが合同で行っている。特に、石川ライオンズクラブの十五周年記念事業として作った「ライオンズの森」の清掃・維持管理は、親子の絆を深めている。石川ライオンズクラブが結成当初から、地域住民の憩いの場を作りたいと思い描いていた夢を、実現させた森である。皆で滝を設け、噴水を作り、鯉を放ち、ツツジを植えた。クラブと共に時を経て成長し、市民に愛され続けている森を、子クラブを作った親世代、親クラブに残った子ども世代が一緒に育て続けている。

石川シニア・ライオンズクラブでは、石川ライオンズクラブを卒業して移籍してくるメンバーをいつでも歓迎する。が、その際には自分が抜ける穴埋めに、若い会員を一人入れてくるのが条件。子どもたちに迷惑を掛けたくない、という親心とも言えるかもしれない。

振り込め詐欺防止のアイデア・アクティビティ「電話詐欺撃退カード」。

山形県・天童舞鶴ライオンズクラブ、天童もみじライオンズクラブ

■取材／編集部

警察庁調べによる二〇〇五年六月末の振り込め詐欺、いわゆる「オレオレ詐欺」の認知件数は三千六百五十七件、被害総額は六十億三千三百三十万円の巨額に上る。新聞やテレビでいくら報道されても、被害者は減らず、それどころか次々と新しい手口で被害が増えていく。自分は大丈夫と思っている人でも、いざ電話が入ると、あっさり引っかかってしまうという。

そんな中、天童舞鶴ライオンズクラブ（東海林正義会長〔当時〕／45人）と天童もみじライオンズクラブ（山口暢夫会長〔当時〕／22人）は昨年度、振り込め詐欺の被害を食い止めようと、電話詐欺撃退カードを一万枚作成。天童市の老人クラブ連合会や連合婦人会、各種奉仕団体を通じて市民に配布した。電話の前に貼り、実際に電話がかかってきた時、冷静になってもらうことを目的としている。

きっかけを作ったのは両クラブの事務局を務める後藤よね子さん。後藤さんの友人が、危うく被害に遭いそうになったという経験が元になった。クラブで話をしてみると、会員の周辺でも電話に遭遇した例が結構あった。そこで、撃退カード作成となったもの。

カードのデザインは市民から募集。募集ポスターを銀行、スーパーなどに貼らせてもらうと共に、各種団体や学校に協力を依頼。また市報、山形新聞、ミニコミ誌に掲載してもらったり、天童舞鶴ライオンズクラブのホームページ上でも募集した。更に天童警察署が、このアイデアに大乗り気となり、全面的に協力してくれた。

その結果、期間内に十代から六十代という幅広い年齢層の市民から七十六点の応募があった。

最優秀賞は市内に住む佐藤千明さん（30）が受賞。作品はA5サイズのカードにし一万枚を印刷、老人クラブ連合会や連合婦人会を始めとする協力団体を通じて市民に配布した。

白砂青松を取り戻せ！　自然の脅威に挑む労力奉仕。

秋田県・本荘ライオンズクラブ

■取材／砂山幹博（ライター）

山形県との県境にほど近い日本海沿岸の街・秋田県由利本荘市。街の西側を貫く国道沿いには、かつて「白砂青松」と称される松並木が何キロも続いていたが、今は見る影もない。飛砂、防風、潮害防備の機能を果たし、地域住民の生活と密接なかかわりを保ってきた松並木に、何が起きたのか。

「ここ五年で県内の松枯れ被害が急速に進みました。原因は松くい虫です」

と、本荘ライオンズクラブ（黒木隆会長／50人）のライオン能戸昌彦はその脅威を嘆く。

通称「松くい虫」の正体は、体長一ミリに満たないマツノザイセンチュウという病原線虫だ。この線虫はマツノマダラカミキリという昆虫の体内に潜み、カミキリが松の皮を食べる時、樹木に侵入し、松の細胞を破壊する。

戦後、西日本から徐々に北上を続けた松くい虫被害は、既に青森県との県境にまで及ぶ。被害がここまで広がったのは、近年の異常気象による高温化の影響によるものだという。

「江戸時代からの松の木が枯れていくのを黙って見ているのは忍びない」

と、ライオン能戸。二〇〇三年にクラブ会長に就任すると早速、松くい虫防除をメーン・アクティビティに掲げた。環境保全委員会を中心に具体的な活動内容を検討した結果、県の森づくり推進課が組織する「白砂青松復活プロジェクト」に参画し、労力奉仕の部分で協力することとなった。

まず始めに、例会に専門家を招きゲスト・スピーチをしてもらい、被害の現状を確認。防除には薬剤散布や被害木の伐採・薫蒸が有効であることなどを知った。

「薬剤散布も効果的なのですが、この辺りは田畑が多いので地道に伐採するしかありません」

と、ライオン能戸は言う。

十月十八日、市内を見下ろす高台にある新山墓地公園で、被害木伐倒作業が行われた。この日は、森林組合や営林局、他の市民ボランティア、地域住民やライオンズら約八十人が参加した。森林組合の人たちが前もって印をつけた被害木を伐採し、一カ所に収集。松が伐採された場所には、松くい虫に強い種類の松の若木を植えていく。

八十人がかりで伐採出来るのは半日でせいぜい七～八本。一方、一匹のマツノザイセンチュウは一カ月で四十億匹以上増えると言われている。松枯れのスピードにはとうてい追いつきそうにないが、「あの美しい松並木が復活するなら」と、メンバー一同奉仕の手を緩めない。以後、継続アクティビティとして年二回のペースでこの伐採作業は続けられている。

周辺には、松繁る島々が美しい景勝地・象潟九十九島がある。この風光を中国の春秋戦国時代の美女西施に例えたのは俳聖・松尾芭蕉。松枯れ進む平成のこの光景を、芭蕉はどう詠むのだろう。

宮城県　仙台

日本で七年ぶりに開催される OSEALフォーラムの舞台

■取材／編集部

るーぷるで巡る市内観光

十月七日から十日まで、仙台市で第四十四回東洋・東南アジア・ライオンズ（ＯＳＥＡＬ）フォーラムが開催される。フォーラム期間中は、エリア内十七カ国から約一万五千人のライオンズと家族が、この杜の都を訪れる。そこで今回は、フォーラムに先駆けて仙台市内を歩いてみよう。

仙台までは東北新幹線を利用すると、東京から一時間四十五分、大宮からなら一時間二十分で着いてしまう。札幌、函館、小松、中部、成田、伊丹、岡山、広島、高松、福岡、沖縄とは航空便で結ばれ、最も遠い沖縄からでも約二時間半のフライトとなっている。

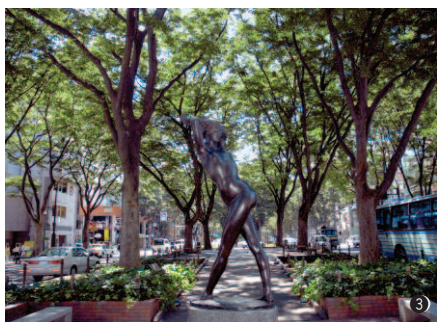
まず起点となる仙台駅では西口にバスプールがある。その15・3乗り場から、観光スポットを巡る「るーぷる仙台」というレトロな外観をした循環バスが出ているので、これを利用しよう。乗り降り自由な一日乗車券（六百円）を購入しておくと便利。

最初の停車場は「青葉通一番町」だが、ここは駅から歩いても来られるので、そのまま通過してもいい。次は「晩翠草堂前」。荒城の月の作詞で知られる土井晩翠が、晩年の三年間を過ごした住居が当時のまま保存されている。

るーぷるはこの後、少し進路を南にとり、広瀬川にかかる霊屋橋を渡って「瑞鳳殿前」まで行く。バス停を降りると、伊達政宗が自らの終焉の地と定めた森が広がり、その奥に政宗が眠る瑞鳳殿がある。

瑞鳳殿を出ると、るーぷるは広瀬川を二度渡り、「博物館・国際センター前」へと向かう。この国際センターが、フォーラムのメーン会場だ。九日にはここで、仙台フォーラムの目玉企画・シンポジウムや、全国の会員が自主的に運営する各種ミニ・フォーラムが開催される。が、その内容は後半に譲って、ここはまず次なる目的地・仙台城へ向かおう。

るーぷるは緩やかな坂を上り、「仙台城跡（青葉城跡）」へと進む。仙台城は、伊達政宗が築いた仙台藩六十二万石の居城。が、城とは言え、天守閣はない。将軍家康の警戒を避けるためだったが、標高百三十㍍の山城だったので、どっちみち天守閣など不要だったろう。

さて、仙台城で絶対に見逃せないのが、天守台からの眺望。仙台の市街地はもちろん、晴れていれば太平洋まで望め、まさに気分は政宗。

●ずんだ餅

仙台では古くから、煮て柔らかくした枝豆をつぶして砂糖を混ぜ、餅にまぶした「ずんだ餅」が作られてきた。独特の色合いと甘み、そしてつぶつぶの食感で人気。「ずんだ」は枝豆を打って作ることから豆打（ずだ）がなまったという説と、伊達政宗が出陣の時に用いた陣太刀（じんだとう）で豆をつぶして食したことから、陣太がなまった、という二つの説がある。

❶伊達政宗の霊屋・瑞鳳殿。桃山様式の遺風を伝える豪華絢爛たる廟建築で、一九三一年（昭和六年）国宝に指定されたが、戦災で焼失。現在の本殿拝殿・涅槃門・御供所は七九年の再建

❷仙台城（青葉城）に建つ政宗像。よく見ると、両目が開いている。独眼竜政宗では？ と疑問に思うが、絵や彫像はすべて両目を入れるようにとの遺言による

❸杜の都・仙台のシンボル定禅寺通は約七百㍍にわたりケヤキ並木が続く。中央の緑道を歩くと、イタリアの著名な彫刻家が制作した「夏の思い出（写真）」や「オデュッセウス」「水浴の女」と出合える

続いてバスは青葉山の中を走り、「理学部自然史標本館前」「二高・宮城県美術館前」を経て、再び広瀬川を渡って市街地に戻ってくる。ここからは定禅寺通を走る（「メディアパーク前」「定禅寺通市役所前」）が、この通りは杜の都のシンボル的存在。真ん中の緑道には、イタリアの有名彫刻家の作品が並び、まるで野外ギャラリーのような趣となっている。また「定禅寺通市役所前」はフォーラム本部ホテルの仙台プラザや、東北最大のネオン街国分町にも近い。

最後のバス停は「地下鉄広瀬通駅」だが、ここも駅まで歩ける距離なので、降りて散策することをお勧めする。

●堤焼

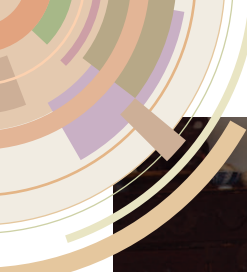
堤焼は仙台城下北辺の警固のため配置された足軽衆の町・堤町で、足軽の内職として始まったことからこの名がある。開窯は一六九四年と、三百年以上の歴史を持つ。代々この業に従事していた針生家は、仙台藩の御用窯を務めていた。現在は四代針生乾馬氏が、その伝統を守っている。写真右は堤焼の陶土と登り窯。

話題満載ミニ・フォーラム

さて、軽く仙台市内を一周したところで、フォーラム会場の仙台国際センターに戻ろう。国際センターはるーぷるでも行けるが、遠回りになるので、路線バス（約十分／料金百八十円）かタクシー（六、七分）を使おう。フォーラムのある九日なら、駅前からシャトルバスも出ている。

これまでのOSEALフォーラムは一般会員が参加出来るプログラムが少なく、開会式が終わると観光というのがお決まりのパターンだった。が、今回の仙台フォーラムは

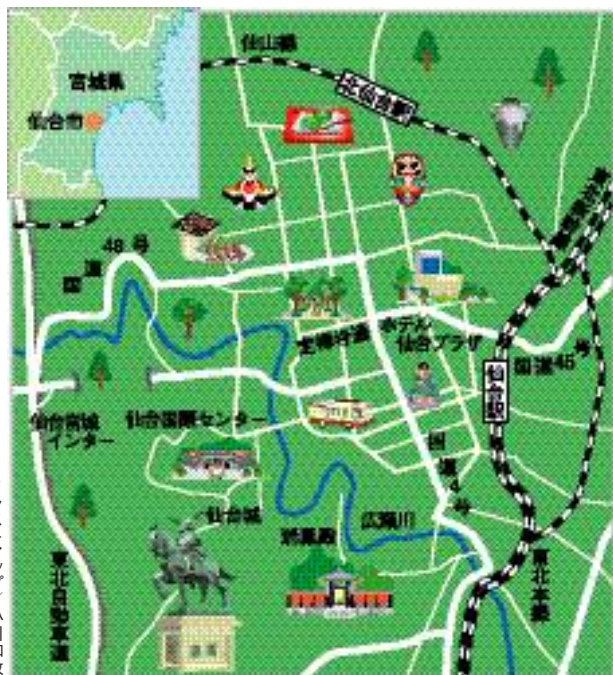
●松川だるま

やけに派手なだるまである。しかも青い……。両目は黒いし、眉には毛がついている。この一風変わっただるまは天保年間（一八三〇～一八四四年）、伊達藩士・松川豊之進が創始したものと言われる。現在は松川の弟子であった本郷家（本郷だるま店）が継承。写真のけさのさんは九代目に当たり、お嫁さんと共に松川だるまの製作を続けている。

●**堤人形**
堤人形は堤焼きを母体に誕生したと言われる土人形で、西の伏見（京都）、東の堤と、全国の土人形の二大源流とされる。顔料をふんだんに使った鮮やかな彩りが特徴。歌舞伎・浮世絵風の人形で、全国的に名声を博しており、特に写真上の三番叟が有名。現在、江戸期からの堤人形の流れをくんでいるのは芳賀強氏の工房だけとなっている。

「IT」「シニア」「女性会員」「明日のライオンズ・クエスト」「ライオンズを考える」という五つのミニ・フォーラムが、十月九日、この仙台国際センターで開催される。いずれも全国の会員有志により運営されるもので、ふだんは会うことのない他地区の会員と交流し、ディスカッションをする絶好の機会である。

ITは午前九時半から、そのほかはいずれも午後の開催となる。九日は何としてもスケジュールを調整し、国際センターに駆けつけ、フォーラムのあり方を変えて頂きたい（ミニ・フォーラムに関する詳細は46～47ページ参照）。

なお、当日は、ここで紹介した仙台の工芸や食べ物などの抽選会が、ライオン誌のブースで行われる。フォーラムに登録さえしていれば、だれでも抽選をする資格があるので、ここにもぜひ参加して頂きたい。

■仙台フォーラム組織委員会とライオン誌日本語版委員会から読者プレゼントがあります（65ページ）。

●**仙臺四郎**
江戸末期から明治三十五年ごろに仙台に実在した人物。
言葉はほとんど話せず「四郎馬鹿（シロバカ）」と呼ばれ、毎日、町を徘徊していた。が、四郎が立ち寄る店は必ず大入り満員、商売繁盛となり、彼が抱く子どもは丈夫に育つということから、福の神として親しまれた。
こうした伝説から、今でも仙台では四郎の写真などを掲げ、商売繁盛を願う所が多いという。
青葉通と広瀬通の間にあるショッピング・アーケード内の三瀧山不動院は、仙臺四郎を安置しており、その参道（通路）に各種仙臺四郎グッズを扱う店がある。

イラストマップ／小川和政

岩手県宮古市
土方歳三の敵艦斬り込みで世界海戦史に名を残す港町。

■切画：風祭竜二／取材：編集部

宮古市は三陸海岸のほぼ中央にある。古くから天然の良港に支えられた漁業の町で、人口約五万三千人。江戸時代には松前―江戸間の中継港として栄えた。現在も北洋サケ・マス漁の拠点港で、県内一の水揚げ高を誇る。

この宮古港で一八六九年、アポルタージュ（接舷攻撃）という稀有な戦法で、世界海戦史に残る戦いがあった。戊辰戦争の一つ、「宮古湾海戦」である。

幕府海軍副総裁だった榎本武揚は、幕府が崩壊した後も、幕府軍艦の新政府への引き渡しを拒否、一八六八年八月、艦隊八隻を率いて江戸から蝦夷地（北海道）に向かった。榎本艦隊には新選組の土方歳三も乗っており、総勢約三千人。

上陸後、土方らが陸兵を率いて北海道南部をを制圧、十二月には函館を中心に「蝦夷共和国」を樹立した。

宮古港　防波堤の屈曲部あたりで回天が甲鉄に接舷した

年が明けて一八六九年三月、密偵から新政府艦隊北上の報が函館に届いた。新たにアメリカから購入した新鋭艦「甲鉄」（一三五八トン）を含む八隻の艦隊だという。甲鉄は、当時の日本唯一の鉄板装甲で、巨砲だけでなく、手動の機関銃「ガトリング砲」も備えていた。

対する榎本艦隊は長い航海と蝦夷地占領作戦で、世界水準の主力艦「開陽」（二七一八トン）を失うなど戦力を大幅に低下させていた。開陽に替わる旗艦「回天」（一二八〇トン）は、いったんは廃艦にされたほどの老朽艦。

強力な甲鉄を旗艦とする新政府艦隊と榎本艦隊が正

面から対戦すれば、後者の惨敗は明らかだった。

それで緊急に開かれた軍議で、土方は一か八かの奇襲作戦を主張する。すなわち、宮古に停泊する甲鉄に自艦を横付けし、斬込隊を乗り移らせて奪い取る。アポルタージュである。異論はなかった。総司令官は荒井郁之助、斬込隊長は土方歳三に決まり、隊員には新選組や彰義隊から剣客六十人が選ばれた。

そして旧幕軍は三月二十日、宮古に向けて回天のほか二隻を南下させたが、暴風雨で一隻が脱落、もう一隻も機関の故障で動けなくなった。荒井と土方は大胆にも、回天一隻で敵艦奪取を決意する。

二十五日未明、偽装のため星条旗を掲げた回天が、そろそろと宮古港に入った。暴風雨で三本マストが折れて一本になっていたこともあり、新政府軍は回天とは気づかない。甲鉄に近づくと、にわかに幕軍の旗「日の丸」を揚げて、接舷を試みた。甲鉄は大混乱に陥った。が、外輪船の回天は横付けに不向きで、艦長甲賀源吾の必死の操艦にもかかわらず、甲鉄の脇腹に艦首から突っ込んだ。

出漁する漁船が戦闘海域を通り過ぎてゆく

回天の甲板は甲鉄のそれより三㍍も高かったが、土方は「死ぬのはここだ、飛び込め」と、刀を抜いて飛び降りた。しかし、細い艦首からでは数人ずつしか乗り移れず、甲鉄の全ハッチを閉鎖して、甲板下に敵兵を閉じ込める作戦は失敗。斬り込んだ数十人は、続々と甲板に上がってくる敵兵に囲まれ、すさまじい斬り合いになった。

やがて、一分間に百八十発連射できるガトリング砲が火を吹き、斬込隊は次々と倒されていった。

更に、新政府艦隊から回天へ銃砲撃が始まり、軍艦「春日」（一二六九㌧）の放った砲弾が甲板を直撃。撃ったのは三等士官東郷平八郎、後の連合艦隊司令長官である。艦長の甲賀は腕、腿を撃ち抜かれつつも指揮をとっていたが、ついに頭に敵弾を受けてしまう。

荒井は「逆に回天が奪われる」と、自ら舵を握って甲鉄から船体を離し、猛スピードで宮古港から退却し始めた。土方は回天甲板から投げられたロープに掴まって脱出。この間、わずか三十分だったという。

土方が密偵を潜ませた月山山頂より宮古港を望む

海戦から間もない五月十八日、五稜郭が陥落して一年半続いた戊辰戦争は終わる。榎本と荒井は捕えられ、土方は戦死。享年三十五歳だった。

現在、百四十年前の海戦を偲ばせるものは、記念碑と戦死者の墓だけである。戦闘のあった港口を、カモメやウミネコを連れた漁船が行き交い、港の端では子どもが磯遊びをしていた。

海は、戦いを想像出来ないくらい穏やかで、底の小石が見えるほど透き通っていたが、触るとヒヤリと冷たかった。（哲）

アクセス

JR宮古駅は盛岡から山田線で約二時間、一日四往復の運転。高速バスでも約二時間で、運行本数は二十往復ほど。

周辺クラブ

宮古岩手ライオンズクラブ（佐々木時男会長／33人）は、一九六四年結成。青少年育成に力を入れており、同クラブ杯のバレーボール大会や将棋大会を開催している。

また、宮古湾海戦で亡くなった両軍兵士の墓を清掃、供養している。

同クラブが一九八二年にスポンサーしたのが、陸中宮古ライオンズクラブ（鈴木義一会長／33人）で、同じく青少年育成に力を注いでいる。クラブ結成以来毎年、クラブ旗争奪剣道大会を行っており、市内の小中学生約百人が参加する。

山形・山寺（立石寺）
鬱蒼とした杉木立の中、芭蕉も通った石段を上る

■写真と文：編集部

阿弥陀如来に見立てた巨岩、弥陀洞から奥の院山門の仁王門を眺める

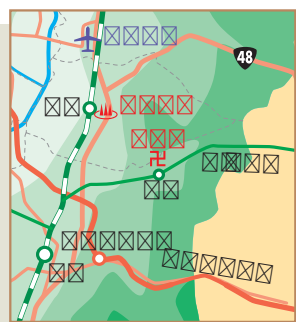
階段が好きだ。歴史ある寺社の石段、しかもちょっと長いぐらいの方がうれしい。頭上で待っている景色への期待を高めつつ、一段ごとに景色が変化してゆくのも楽しい。すり減った石段には、古の人も同じように息を切らしながら上ったのだなあと思う。そして何より、最上段に到達した時の達成感がたまらない。後で襲ってくる筋肉痛は覚悟の上だ。

山寺の石段を上ったのは十年と少し前、当事務所に就職したてのころだった。卒業後、仙台に帰郷した友人を訪ねるついでに足を伸ばした。

山寺は、正しくは宝珠山阿所川院立石寺。清和天皇の勅願により貞観二年（八六〇年）に慈覚大師円仁が開山したと伝えられる。荒々しい奇岩を露わにした岩山は杉木立に覆われ、山腹に大小四十あまりの堂塔が建つ。石段は鬱蒼とした緑の中を縫って、奥の院まで続いている。

訪れたのは七月半ばで、蝉の声が響いていた。岩山の凝灰岩に出来た多数の風化穴が、音を吸い込むような独特の音響効果を与えているという。芭蕉が山寺を訪れたのは元禄二年（一六八九年）の旧暦五月二十七日で、太陽暦では七月十三日。俳聖が耳にしたのと同じ「岩にしみいる蝉の声」を聞いたことになるだろうか。

杉木立が陽を遮ぎってくれるが、額には汗。参道の土産物屋で杖を借りた友人をふがいないと笑ったものの、息が上がり、歩みはだんだん遅くなる。途中の茶屋で名物「力こんにゃく」を食べて、更に上を目指す。辿り着いた五大堂からの眺めは爽快。門前町と二口峠を見下ろす風景は、のどかで、どこか懐かしく感じられた。

山寺観光協会のホームページによると、山寺の石段は千十五段。ためしにインターネットで「日本一」と「石段」のキーワード検索をしてみた。結果、熊本県美里町にある金海山大恩教寺の釈迦院に通じる石段が、三千三百三十三段で日本一とのこと。七年前に完成したもので、それまでは山形・出羽三山、羽黒山神社の登山道二千四百四十六段が日本一だったそうだ。いつか挑戦してみたいなあ。（河）

観光一口メモ

国指定の重要文化財である根本中堂、慈覚大師の廟所である開山堂、舞台造りの五大堂を経て奥の院まで、ゆっくり上っても往復で約二時間ほど。近くに芭蕉の奥の細道三百年を記念して建てられた山寺芭蕉記念館もある。

アクセス

宮城県仙台市と山形を結ぶJR仙山線の山寺駅から登山口まで徒歩約七分。仙台からは普通列車で約一時間。仙台フォーラム参加の折に訪れてみるのもよいだろう。

周辺クラブ

立石寺は山形市の外れにある。市内には、山形、山形紅花、山形千歳、山形中央、山形霞城、山形蔵王、山形羽陽、山形センチュリー、山形アルカディアの九クラブがある。

第3回LCIFスタディ・ツアー案内

2006年2月1日（水）～7日（火）タイ

2月1日から7日の日程で、恒例となったLCIFスタディ・ツアーが開催される。第1回のインド、第2回のカンボジアに続き3回目となる今回のツアーはタイを訪問。視力ファースト事業、昨年暮れのインド洋津波災害被災地を回り、LCIF事業の内容を自分たちの目で見て、確認する。

恒例となったＬＣＩＦの第三回スタディ・ツアーが、二〇〇六年二月一日から七日まで、五泊七日の予定で開催されることになった。今回の訪問地はタイで、コラートの眼科病院や、チェンマイのエイズ孤児院などを視察する。

コラートの眼科病院は、基幹施設の強化に取り組む視力ファースト事業で建設された二百七件の眼科病院や診療所などの一つ。

また、タイはアジアの中でＨＩＶ感染と、エイズ（後天性免疫不全症候群）の発症率が最も高い国の一つで、チェンマイでは、エイズによって両親を失った子どもたちの施設を訪問。

五日目には、インド洋津波により大きな被害を受けたタイ南部のリゾート地の復興状況も視察する。

スタディ・ツアーは日本ライオンズの要望にこたえＬＣＩＦが企画しているもので、旅行の手配は前二回同様、協和海外旅行が担当する。費用及び申し込み期限等、詳細に関しては同社に照会されたい。

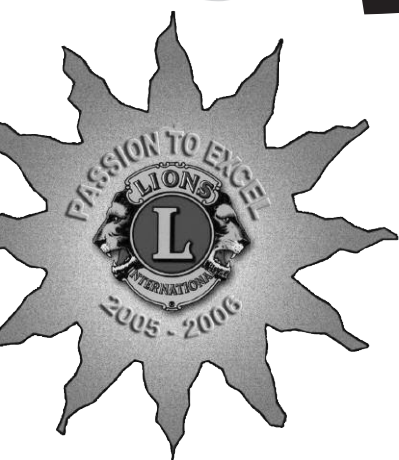
第3回LCIFスタディ・ツアー旅程表

日付	行程	
2月1日（水）	成田空港11:00→バンコク15:30（TG-641）	
	関西空港11:45→バンコク15:35（TG-623）	
	福岡空港12:00→バンコク15:50（TG6-649）	
	18:00～19:00	LCIFセミナー
	19:00～21:00	バンコク・ライオンズと交流
2月2日（木）	バンコク 8:00→コラート12:00（専用バス）	
	午後	眼科訓練センター等視察
2月3日（金）	コラート 8:00→バンコク12:00（専用バス）	
	バンコク15:25→チェンマイ16:35（TG-923）	
	夜	チェンマイ・ライオンズと交流
2月4日（土）	終日	エイズ孤児院等視察
2月5日（日）	チェンマイ10:15→バンコク11:25（TG-103）	
	バンコク12:30→クラビ13:50（TG2470）	
2月6日（月）	8:00～14:00	インド洋津波被災地視察
	クラビ18:10→バンコク19:30（TG-260）	
2月6日（月）～7日（火）	バンコク23:40→成田空港7:30（TG-642）	
	バンコク23:59→関西空港7:30（TG-622）	
	バンコク01:00→福岡空港8:00（TG-648）	

●ツアー企画
ライオンズクラブ国際財団（担当：田辺憲雄資金開発課課長）

●ツアー取扱
協和海外旅行株式会社
〒113-0033東京都文京区本郷4-5-10　サンファミリー本郷202
TEL：03-3816-7971　FAX：03-3816-7977
E-Mail：kyowa@kyowa-kaigai.jp
担当：野口正二郎（東京関東ライオンズクラブ）

「プラス1」チャレンジで 会員増強の達成を

〜目標達成を担うミッション30の役割〜

「飛躍への情熱」をテーマに掲げるアショク・メータ国際会長は、国際プログラムの一つに「発展への情熱」を挙げ、会員増強の目標を明確にしている。それが「プラス1」チャレンジ。実現にはMERLチームやゾーン・チェアパーソンの活躍が不可欠となる。目標達成の特命を受けたミッション30も活動を始めている。

会員増強の「プラス1」チャレンジ

今年度メータ国際会長が提案した会員増強の目標は、いたって単純明快。この上なくシンプルだ。「プラス1」は、各クラブが会員一人の純増、各地区が一クラブの純増を果たそうという、非常に分かりやすい数値目標である。

会員を一人、クラブを一つ増やすことは、それほど高いハードルではない。努力次第では十分に実現可能で、チャレンジしやすい目標ではないだろうか。しかも、これをクリアすることで得られる成果は非常に大きい。仮に世界中のすべてのクラブが会員を一人増やし、すべての地区が一クラブ増やしたならば、六万人の会員が、新たに人道奉仕の仲間に加わる計算になる。

マイナス成長が続く日本の各クラブがプラス1を実現するには、新会員の招請と同時に、退会を防ぐリテンションにも力を入れる必要がある。地区の場合も同様、エクステンションと共に、解散の危機を早急に察知し、再建に向けてリーダーシップを発揮しなければならない。つまり、メンバーシップ(Membership)、エクステンション(Extention)、リテンション(Retention)、リーダーシップ(Leadership)のMERLが、目標達成の要となるのだ。各地区では五年前から、副地区ガバナーを委員長としたMERLチームを組んで、

香港国際大会で開かれたミッション30会議

MISSION 30

会員増強に取り組んできた。その活動を更に強化するため、メータ会長が今年度新たに組織したのが「ミッション30」。MERL活動の活性化を促すのがその任務である。

ミッション30の組織と活動

メータ国際会長は、会員増強の目標を達成するために、世界中で三十人のライオンズ・リーダーをミッション30国際チーム・リーダーに任命し、それぞれの担当地域で会員増強を促進するというミッションを与えた。すなわち「ミッション30（以下、M30）」である。日本国内では、多久良男リーダー（335複合地区元協議会議長）が330、334、335複合地区を、後藤隆一リーダー（333・C地区元ガバナー）が332、333複合地区を、杉田貞治リーダー（337・D地区元ガバナー）が331、336、337複合地区を担当する。更に各地区にはM30地区コーディネーターが、各複合地区にはM30複合地区コーディネーターが、それぞれ地区ガバナーの任命、ガバナー協議会の委嘱により就任している。

●プラス1へのチャレンジ――プログラム推進の具体策

1. 各クラブ純増1人
   - ・地区内全クラブの連帯意識を高めるため、ゾーン単位で目標を設定
   - ・年度末の減少を考慮した運動の展開
   - ・ゾーン・チェアパーソンは各クラブ会長と密接に連絡をとり、会員数の動向をリジョン・チェアパーソンを通してM30地区コーディネーターに報告
   - ・具体策はゾーン・チェアパーソンの自主的な方法を各クラブに伝達
2. 各地区純増1クラブ
   - ・会員数の減少しているクラブの現状を踏まえ、既存クラブの合併も考慮に入れながら、新クラブ結成数の目標を設定する
3. 20人未満のクラブに対する会員増強
   - ・ゾーン・チェアパーソンは該当するクラブに対し、2005年12月末までに不足数分の増強策を講じるよう指導する。賛助会員制も活用する
4. 女性会員の増強
   - ・ゾーン内に女性クラブがない場合、ゾーン内クラブが結束して女性クラブをエクステンションするよう努力する。男性のみのクラブは女性入会のため具体策（入会金免除の優遇措置など）を設ける
5. ゾーン・チェアパーソン研修会

クラブ・ダイヤモンド・アワード
⊠
今年度中に会員純増を成し遂げたクラブ会長に、業績に基づいて1～5個のダイヤモンドのついたピンが贈られる

地区スター・アワード
★
地区ガバナーは会員増強に必要な10の項目について、それぞれの達成状況によりポイントを獲得。ポイントに応じてアワードを贈呈

「プラス1」地区アワード
＋
地区内で1クラブ純増、かつ過半数のクラブが会員1人純増を記録した場合、プラス1地区として地区スター・アワードでボーナスを獲得。更に、地区のチームワークを称え、すべてのゾーン・チェアパーソン、リジョン・チェアパーソンにプラス1ラペル・ピンが贈られる

＊アワードの詳細は、「飛躍への情熱」パンフレット（公式ウェブサイトwww.lionsclubs.orgの「情報資源」でダウンロード可）参照

その職務や組織形態は二〇〇二年度、〇三年度の二年間にわたって活動したインパクト・チームを踏襲しているが、インパクトがエクステンションに力点を置いたのに対して、今回はMERL全般を活性化して、プラス1を目標にして会員増強を図る。

M30地区コーディネーターは、M30国際チーム・リーダーと地区ガバナーとの橋渡し役を務めて連携を取りつつ、会員増強の実働部隊であるMERLチームやリジョン・チェアパーソン、ゾーン・チェアパーソンに働きかけ、刺激を与えて、目標達成を促すという重責を担う。まずは、プラス1の目標をゾーン・レベルまで周知徹底させることを最初のステップとして、複合地区、地区で活動が始まっている。

地区内においては、特にゾーン・チェアパーソンの役割が重要視されている。メータ国際会長の「発展への情熱」プログラム推進の具体策（上記参照）では、目標設定から会員数動向の把握、更には各クラブへの具体策の提示と、ゾーン・チェアパーソンの積極的な取り組みを求めている。その働きがプログラム推進と目標達成の鍵を握ることになりそ

ムへの試金石
フォーラム

十月七日から十日まで、宮城県仙台市で、第四十四回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムが開催される。日本では七年ぶりの開催となり、国内外から約一万五千人の参加が見込まれている。

このフォーラムでは、これまでにない新しい試みとして、五つのテーマでミニ・フォーラムが開催される。いずれも全国の会員が自主的に運営に携わり、従来の物見遊山的なフォーラムから、参加型フォーラムへの脱皮が期待される。

そこで、今月号では仙台フォーラム直前情報として、ミニ・フォーラムの日程と内容を紹介する。

●ITパワーアップ・フォーラム

趣旨 ライオンズクラブが、今後更に時代のニーズに即した奉仕団体として生き残っていくためには、ITの活用が不可欠となる。そこでITをキーワードに、明日のライオンズの奉仕と運営を熱く語り合う。全国の会員とのオフ会を通じて、友情と信頼を築こう。

主催 ITパワーアップ・フォーラム実行委員会（寒河江潤一実行委員長／山形県・天童舞鶴）

後援 ライオン誌日本語版委員会

日時 十月九日（日）九時三十分～十一時三十分

場所 仙台国際センター「橘」及び小会議室1～3

内容 分科会1「ITとアクティビティ」
分科会2「ITとクラブ運営」
分科会3「災害時の情報伝達とIT活用」
分科会4「LCIFとPR」
全体会
フォーラム宣言採択

●シニア・ライオンズ・フォーラム

趣旨 全国のシニア・クラブは二〇〇四年に日本シニア・ライオンズクラブ連絡協議会を発足させ、全国シニア・フォーラムを開催するなど交流を深めている。仙台ではクラブ間の連携を更に強め、レギュラークラブの皆様にシニア・ライオンズクラブの存在を認知して頂き、シニアクラブ結成につなげることで、会員増強に貢献したい。

主催 日本シニア・ライオンズクラブ連絡協議会（森一男運営委員長／北海道・サッポロシニア）

後援 ライオン誌日本語版委員会

日時 十月九日（日）十二時五十分～十四時五十分

場所 仙台国際センター「桜2」

内容 基調講演「シニア・ライオンズクラブへの期待」（石橋幹雄国際理事）
パネル・ディスカッション（パネリスト：関根利康〔茨城県・下館シニア〕長澤大七〔北海道・サッポロシニア〕近藤恒治〔愛知県・豊田シニア〕矢内芳夫〔福島県・石川シニア〕出澤広〔神奈川県・横浜シニア〕／司会：海江田幸雄〔鹿児島県・国分隼人手降川縄文〕）

●レディース・フォーラム

趣旨 OSEALフォーラム公式プログラムとして開催されるレディース・プログラムの一環

参加型フォーラ

5つのミニ・

として、ライオンズクラブの運営や活動における女性の役割と飛躍についてシンポジウムを実施する。後半では「美と和」をテーマに和楽器演奏、着付けショーなどを行う。

主催 レディース・プログラム委員会（菊地美子委員長／宮城県・仙台キャッスル）
後援 ライオン誌日本語版委員会
日時 十月九日（日）十三時～十五時
場所 仙台国際センター「白橿」
内容 パネル・ディスカッション（コーディネーター：櫻井慧子〔埼玉県・大宮グリーン〕／パネリスト：笠原光子〔神奈川県・横浜みなと〕能瀬さち子〔埼玉県・川越リバティ〕中野久子〔福島県・会津若松なよたけ〕高橋かず子〔大阪府・堺フェニックス〕）

●ライオンズ・クエスト・セミナー

趣旨 青少年が、「自尊心の高い」、「責任感のある」、「自分も他人も大切にする」、前向きで、健康的な人間に成長するために必要な「生きる力」を育む青少年育成教育プログラム、ライオンズ・クエスト・プログラムの内容とその効果について、仙台市民及び教育関係者も交え、共に考える機会とする。セミナーは一般公開もする。

主催 330複合地区ライオンズ・クエスト委員会（渡辺真一委員長／埼玉県・春日部）
後援 ライオン誌日本語版委員会
日時 十月九日（日）十三時～十五時三十分
場所 仙台国際センター「大ホール」
内容 講話「教育現場とライオンズ・クエスト」（並木茂夫埼玉県川口市立十二月田中学校校長）
模擬授業（篠田康人ＬＣＩＦ認定ライオンズ・クエスト・プログラム講師）

●明日のライオンズを考える

趣旨 ここ数年、ライオンズクラブでは、国際協会、地区、クラブのさまざまなレベルで変革の気運が高まっている。が、伝統的な運営やアクティビティからの脱却がなかなか進まないのが実状だ。そこでそんな閉塞感漂う現状を打破し、明日のライオンズの発展を目指すため、全国の会員から寄せられた五つの提言（ライオンズ・スクールの創設を、ライオンズにおけるＩＴの有効活用、ＰＲの重要性、活性化に向けた地区分割、年次大会のあり方）を元にディスカッションを行う。

主催 ライオン誌日本語版委員会（荒川隆志委員長／北海道・室蘭東）
日時 十月九日（日）十三時三十分～十六時
場所 仙台国際センター「橘」
内容 基調講演（高橋義太郎332複合地区議長）
パネル・ディスカッション（パネリスト：後藤隆一ミッション30国際チーム・リーダー、高橋義太郎332複合地区議長、鈴木誓男ＣＳＦⅡＭＤ・セクター・コーディネーター／司会：今井三和元330－Ａ地区ガバナー）
講評（山田實紘国際理事）

題字／齋籐　利廣（福島飯坂）（応募要領→56ページ）

●獅子吼（ししく）①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力にたとえていう語。②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

ライオン歴四十五年とボクの歩いた百六十カ国

厚沢　弘陳（東京関東）

「ミスター・アツザワ。ユーはライオンズクラブに入会してみませんか」

話は一九五九年（昭和三十四年）にさかのぼる。当時ボクは大学医学部の眼科学教室で、義眼やコンタクトレンズの研究開発をしており、アメリカ・シカゴで開催された第一回世界コンタクトレンズ学会に、日本代表の一人として参加した。まだ海外旅行は自由化されておらず、観光目的はダメ、外国へ行くには、先方からの正式な招聘状がないと渡航許可が下りない時代だった。

この学会会場で、さっきから熱心にライオンズへの入会を勧めてくれているのが、日系二世のトーマス・マツウラ氏だ。ボクは言われるまま、その翌六〇年、東京関東ライオンズクラブに入会した。

初めて例会に出席してビックリしたのは、会員のほとんどが外国人ということだった。会話も全部英語で、日本語を使うとファインを取られるとのことで再びビックリ！　これは大変なクラブに入ってしまったと後悔したが、もう遅い。

ある例会では、たまたまゲスト・スピーカーがいなかったので、会長から「何でもいいから一人三分ずつしゃべれ」という「命令」が下った。もちろん英語でだ。ボクはそれを聞いた瞬間、目の前が真っ暗になった。やがて前の方の席からメンバーが順に話を始めたが、その英語がまた流ちょうだ（欧米人が主だから当たり前だ）。順番はだんだんとボクに近づいてくる。もう、目の前にあるおいしそうな料理ものどに通らない。

が、幸いなことに、二、三人で時間切れになり、ボクはほっと胸をなで下ろした。

「東京関東ライオンズクラブは、日本でも数少ないイングリッシュ・スピーキング・クラブなんですよ。まあ、最初は大変かもしれないが、生きた英会話の勉強にもなると思うから、がまんして長くいてくださいね」

ライオンマツウラにそう言われると、気弱なボクは辞められなくなり、とうとう今年で在籍四十五年のクラブ最古参になってしまった。

しかしライオンマツウラの言ったように、英会話の勉強には役立ったようで、最近ハワイで「ミスター・アツザワは英語も上手いし、発音もいいですね。ハワイの生まれですか」と過分のお世辞を言われたりした。

そして初めての海外旅行がボクの半生を大きく変えることになる。ボクは国際会議のたびに旅行を重ね、九一年に『ボクの歩いた百カ国』、九七年に『ボクの歩いた百五十カ国』を上梓し、今回十三冊目の著書・著作の写真集『風　光と影・ボクの歩いた百六十カ国』を出版した。この本は、全国図書館協定選書の優良図書に選ばれ、全国の主要書店で発売

されている。中には豪華本コーナーで、平山郁夫先生の画集と並べられている所もある。

長途の旅は世の哀愁。ボクは夕暮れの街が好きだ。暮れなずむ異国の街。空を茜色に染めて沈む夕陽を眺めていると、いつしか遠い故国に思いを馳せ、ノスタルジアが胸をかきむしる。こうした旅の魅力がボクをとらえて放さない。「死ぬまで持って行ける財産・思い出」を買うのが旅。思い出はだれにも奪われることなく、心の中で永遠に生き続けるのだ。だからボクはこれからも命ある限り旅を続けようと思っている。

（旅行ジャーナリスト・78歳）

■ライオン厚沢の著書を「会員刊行物」（56⊠）で紹介しています。

イラスト／小川和政

一跬への挑戦

燕昇司 信夫（富山県・高岡志貴野）

二〇〇四年十月十五日、四百四病の網をくぐることが出来なかった。当然、神様から四百五病はまかりならん。明け方の唐突な肉体偏重が「一跬（片足）への挑戦」のプロムナードになるとは予想もしなかった。地球の重力は地に引かれるが、私の体はニュートンの法則に反し右側に重力がかかる。天と地の逆転、左と右の逆転、俯瞰しているような不思議な感覚……飲酒してジェットコースターに乗する気分の連続で、忍耐の限界を超えていた。わずかに頭部を回すだけで激しい地球の回転が始まる。

一連の検査は吐瀉しながら無意識のうちに終わり、治療の始まりである。点滴の影響による排尿行為を看護士は寝たまま尿瓶で取るように言うのだが、半世紀あまり男は立って用をたすものと体が覚えている。……出ない。すると看護師は私の性器を無造作に摘み尿道に管を入れる。若い看護婦と女房の見守る目が、少年のような含羞に拍車を掛け中年を赤面させた。

医師、看護師による献身的な治療が進むにつれ仕事、家庭、ライオンズクラブのことが気懸かりになる。肉体の不自由が気分を地深く沈めた。脳幹梗塞を抱えクラブの責務が行えるか不安が襲い、眠れぬ日々を過ごす。リハビリの開始は自分の足で歩くこと、自分の目で文字を読むことである。自分の足で立てない、片膝を床に安定させ、右足をしっかり床に密着させ、ゆっくり身体を上げる。よろけて右肩から身体が崩れ落ちる。今まで無意識にしていた行為が出来ない。私の手足となるパソコンの画面は右へゆっくり旋回し文字が読めない。悔しさよりも肉体の神秘に驚くばかりだ。

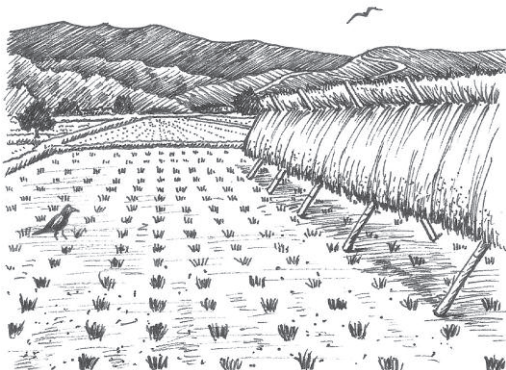
自分の足で一歩を踏み出せるのはいつのことになるか、不安が付きまとう。一跬への挑戦がスタートした。二〇〇五年七月からの会長職が待っている。七月一日までまだ二百日以上ある。焦ることはない、浮き立つ気持ちの高揚が肉体の枷を外してみせる。私のリハビリの意欲はライオンズが原動力になりつつあった。この冬を過ごし、春を過ごし、会員の顔を見る喜びがある。もしも、クラブの会長職がなかったら、私のリハビリは徒爾として消え急速な回復はなかったであろう。この七月という期限がリハビリの意識を高め、べ

ッドの中で次期への構想を起こし、奉仕について考える機会を得ることが出来た。
それは、医療機関で働く人の昼夜を仄聞するにつれ、報酬以外の気持ち、優しさ、厳しさ、愛、熱意が患者を再び復帰させていることを知るのであった。ライオンズクラブも奉仕活動を考えた時、この目に見えない気持ちが必要なのだとベッドの中で思うのである。
私のクラブ・スローガンはこの時「惻隠（あわれみ）の心でウィ・サーブ」に決定したのである。日常の生活の中に奉仕活動がある。クラブ・モットーは「日々 We serve」が思い浮かんだ。
七月の第一例会を迎えた。車いすで出席なんかかっこ悪いじゃないか。一跬への挑戦から二足歩行で演壇に立ち、会長の所信表明を終えた時、私はここに立つことが出来たのはライオンズのおかげだと実感し、感謝の思いにあふれていた。
スローガンとモットーは病棟で教えてもらった感謝の気持ちと奉仕活動のあり方である。私は宿痾に一生お付き合いするのだが、病院での経験が意志をみなぎらせ、新たなクラブ活動の原点になるであろう。あと二十三回の例会を乗り越えた時、私の「一跬への挑戦」は了とする。

（呉服卸業・58歳）

龍馬の精神でウィ・サーブ

竹崎　誠（高知りょうま）

我々、高知りょうまライオンズクラブは「幸せ」のクラブです。今年度九年目を迎えました。世界的にもめずらしく個人名をクラブ名称に取り入れています。
「りょうま」はもちろん、幕末日本の新しいリーダーとして力いっぱい活躍した、あの坂本龍馬です。
龍馬の短い生涯にあって、国のため、人のために働いた、彼のその奉仕の精神を受け継いでいることが、我がクラブの大きな特徴です。新年度第二回目となった七月二十一日の第百八十四回例会は、二人の新会員の入会式でもありました。
新会員はそれぞれ三十代の素晴らしい若者です。この二人を加えて会員数は四十四人になりました。昔から四と四を合わせ、「四合わせ」が「幸せ」につながると言われている数字で、幸せなクラブになっております。
我がクラブは、近年の国際会長も国際プログラムに組み入れている、女性会員増強、会員増強、会員全体の資質の向上などを、結成当初から常に意識してクラブ運営を進めてきました。実際、我がクラブには、いつも、意欲的、行動的な七人の女性会員がおります。時には情熱的な「お龍さん」や「おとめ姉さん」のように、男性会員と協調し、更には励ます行動派です。ちなみに今年はクラブ会長とライオン・テーマーが女性です。
今年も高知では、夏のビッグ・イベント「よさこい祭り」が始まります。郷土の観光のメーンとも言えるこの祭りは、高知県下の若者を主体に、全国からの参加者も多く、今や世界へ向かって広がっています。もちろん我々高知りょうまクラブのメンバーも参加・

協力しております。全国のライオンたちの飛び入り参加も大歓迎です。

我がクラブのコミュニケーションは、土佐の名物・皿鉢料理と辛口の地酒による「ノミニケーション」が、重要なポイントを占めています。今年も全員が、ウィ・サーブの精神で力強い活動を進めて参ります。（獣医・68歳）

科学の進歩と私たちの進むべき道

浅岡 吉治（愛知県・西尾東）

私たちは情報の多くをマスメディアから得ています。しかし意識しないとそのすべてが正しいと錯覚してしまいます。ダーウィンの進化論とそこから派生した多くの学説は、日本人や多くの世界の人々を混乱に陥れています。いまだ進化論は推論の一つでしかなく、証明されてもいません。資本主義の推進に好都合という理由で政治的に利用され、世界に蔓延しました。

その後、進化論を妄信する多くの科学者はミッシングリングを補完する化石や事実を発見しようと日夜、研究していますが、その成果は進化論から遠ざかるものばかりです。また、進化論は二十年以上前に、最先端の生物学を研究する科学者による世界生物会議において否定されてるにもかかわらず、その後有効な新しい論法が見いだされないため、いまだ、真実であるかのように報道されています。

しかし近年アメリカ、カナダなどではインテリジェンスデザイナー（ＩＤ）論が台頭し、進化論の信憑性が真剣に議論されています。

このＩＤ論は第三者が意志を持って生命を創造したという説で、既にカナダの生物学の教科書には進化論、神による創造論、宇宙人の創造論が併記され、あなたはどれを選びますかと、個人の自主性に任せるような教育に変わってきています。また、今までタブーとなっていたＵＦＯの飛来についても日本の国会で真剣に議論されるようになりました。

ＩＤ論ではすべての生命は初めから、それぞれ種として存在し、変化も進化もしません。これはとても科学的な説であり、現代教育を受けた人には説得力を持つものです。ＩＤ論は生物の多様性、進化論的に無意味な生命の装飾性などに決定的な論拠を与えています。

進化論では遺伝子のミスコピーによって高

等生命が誕生するとされていますが、DNAは科学的にはミスコピーは有害なものしか発生せず、自らは修復的に働くことが解明されています。人間はミスコピーの成れの果てではなく、そのようにデザインされた芸術作品であり、意図してDNAを操作し生命の息吹を与えられた、かけがえのない存在なのです。殺し合いや、自殺などせずに人生をもっと幸せに生きるべきであり、互いの違いを尊重し、もっと愛に満ちた生活をすべきである、というものです。宗教的蒙昧や、倫理にこだわることなく科学を進歩させることが人類を究極的に幸せにするでしょう。もう私たちは進化論の亡霊から解き放たれ新しい論理を導き出す時代にいます。科学の目覚ましい進歩は旧来の常識を百八十度変えてしまおうとしています。ところが私たちの意識の変化は遅々として進まず、その乖離は広がるばかりです。

今、科学技術の進歩によって、私たちは道端にある物質からウイルスという生命を化学的に創造することが出来るようになりました。それはわずか三十年の遺伝子工学の進歩によってもたらされたものです。十年前、コンピューターはウインドウズ95によりやっと黎明期を迎え、携帯電話は全く普及していませんでした。ところが今はどうでしょう。一人一台持つようになった携帯電話は、コンピューターと融合しテレビすら取り込もうとしています。このような時代にあって、ちょっと知恵を働かせて二十年後の未来を垣間見ると、生命科学はウイルスからバクテリア、そして微細な生命を創造し、人間の壊れた臓器を交換し、寿命も飛躍的に延び、二百歳も可能となるでしょう。更には植物や動物を創造する時代が来るのは理解出来るでしょう。

二十五年前、試験管ベビー・ルイーズの誕生は悪魔の子どもが生まれるとマスコミが非難したにもかかわらず、今では日本において、毎年百人に一人が科学の恩恵で生まれ、子どもに恵まれない家族に光明を授けています。更に七年前、羊のドリーが誕生し、二年前人間ではイブと言う名のクローンが生を受け、生命倫理を損なうものだと非難されました。しかしこれは家族にとっては福音であり、古来、宗教で待ち望まれた不死へ扉が開くものとなるでしょう。これはいずれ殺人、テロ、戦争が無意味であることを証明し、病死もなくなり、人類の悲しみを拭い去る時代へと導くでしょう。恐怖感をあおるマスコミに迎合せず、事実を突き止めることが大切です。あらゆる技術も初めは完璧ではありません。それを改良し人類に貢献出来るよう導くことが私たちに求められています。

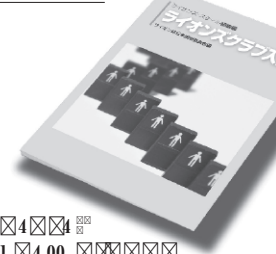
私たちライオンは先進的意識の持ち主として社会をリードし、科学の発展を遅らせるあらゆる障壁に対して立ち向かい、世界中にあふれている偽善に対し立ち向かうことこそ、人類に貢献出来る道だと思います。バイオテクノロジー、ナノテクノロジーといった科学の進歩こそが地球環境の汚染を改善し地球の緑をよみがえらせ、貧困や飢餓を克服し、病気をなくし、更には人間を労働から解放し人類に幸福をもたらす手段となると確信しています。数年先ではなく、十年先を見据えた意識で社会構造に対処し改善に努めていくのが私たちの道であると思います。

（歯科医・52歳）

俳壇

■選者　森　澄雄

【特選】

新涼の影曳く余呉の路通句碑　（福井県・敦賀）山本　麓潮

（評）路通の句碑は余呉湖での句「鳥共も寝入てゐるか余呉の海」の作であろう。秋になってからの涼しい影を曳いている。

人気なき敦盛塚の蝉しぐれ　（兵庫県・神戸シニア）野口　章子

（評）神戸市須磨区一ノ谷町の須磨浦公園（六甲山地西端の鉢伏山と須磨浦海岸の間に位置する広大な自然公園）。ここは源平の古戦場。園内に「青葉の笛」に歌われる平敦盛塚や「戦いの浜」の標石がある。敦盛塚に人気もなく盛んに蝉しぐれがそそいでいる。敦盛は熊谷直実に討たれた。

（応募要領→56ページ）

【入選】▼

端居してそのまま闇に包まれし　（群馬県・高崎）滝澤　淳

素振り千回汗潔く出すべしと　（東京お茶の水）栗原保之助

糊ききし浴衣好める隠居かな　（愛知県・南知多）内田二三子

槍穂高仰ぎて啜る岩清水　（愛知県・名古屋樟）髙橋　忠男

秋涼し来る人もなく読書かな　（愛知県・高浜）岩月　三則

木曾谷の深さ隠せる狭霧かな　（岐阜県・美濃坂下）吉村　道子

打上げの花火合図に鵜舟出づ　（兵庫県・西脇）高瀬　博子

盆東風の弘法の山胡麻豆腐　（大阪府・東大阪）木村　稔

鉾町衆息ぴったりと辻廻し　（大阪カトレア）吉村美穂子

利尻富士全容見ゆる航涼し　（大阪プラム）竹田　房子

背山より夏風通し異人館　（大阪夕陽丘）角野桂治郎

夏の霧金剛葛城かくしたる　（大阪府・堺浜寺）宮部　嘉博

七月や残雪見ゆる羅臼岳　（大阪府・八尾中央）須田　忠義

露けさの法灯一つ大師廟　（和歌山県・伊都高野山）慈幸　秀騎

藍涼し手機に掛かる伊予絣　（奈良）小林　成子

歌壇

■選者　春日真木子

【特選】

雨に顕つ額あぢさゐの英語塾親のくるまが点滅して待つ

（青森県・弘前）岩間　甫

（評）英語塾の前庭に咲く額紫陽花。額紫陽花は、中心の細かい花が密生し、周りを四ひらの花びら状のガクが額縁のように囲んでいる。紫陽花とくらべて素朴な味わいがあり目立たないが、雨に濡れ四ひらの白いガクが清楚に際立ったのであろう。額紫陽花の点々と顕つ白が、英語の弾む発音をも思わせる。さらに塾の前には、親の車のライトが点滅し、学習の終わる子を待つという。今日の現象を描いた一首。雨の中、この三つの取り合わせの妙。今月は、加藤、横井氏の作品にも注目した。

（応募要領→56ページ）

【入選】▼

蕗の葉にあそぶ蛍の火の動きわが胸うちにしばし息づく

（青森まほろば）加藤　捷三

手の甲に爪痕残り二千羽の鶏の体重測り終えたり

（青森県・五戸）吉田　晶二

群集の頭上にひらく大輪の花火はゆるゆる金糸をたらす

（千葉県・館山中央）荻野　貴子

真近なる幹に轟くみんみんが塞ぎゐる吾の憂さ打ち破る

（千葉県・東庄）宇井　秀雄

小原和紙の大ぶりな団扇に泳ぎいる二匹の金魚夢から覚めて

（愛知県・西尾東）坂部喜三江

御神木の太き幹すべて苔むして触るるなの札あり触れたき誘惑

（三重県・四日市北）横井　真澄

蒼き空真二つに裂き落ちてくるヒューズの滝に息を呑みたり

（石川県・羽咋）竹津　弘子

海亀の産卵するといふ浜辺人に制約きびしくもある

（兵庫県・山崎）竹田　長司

加領郷（かりょうご）の西瓜の並ぶ青果市　味見（あじみ）に割れば人の群がる

（高知県・土佐香南）野村土佐夫

つれあいの死にし家より聞こえくるテレビの音の今宵は高し

（大分県・中津沖代）松本　達雄

柳壇

■選者　大木俊秀

【特選】

群羊を抜けると見えてくる昨日　（青森県・八戸中央）大久保健峰

（評）「群羊」は羊の群れ。「群羊を駆って猛虎を攻む」の場合の群羊は「多くの弱者」にたとえられますが、この句は単純に群羊の中に埋没しそうな羊飼いを想定すればいいでしょう。群れを抜け出て視野が広くなったとき、ああ、そうだったかと見えてくる昨日の全貌。人生も仕事もその繰り返し。

ハンガーに疲れた鎧ぶら下げる　（長崎県・佐世保西）神谷　治雄

（評）「背広」とか「上着」とかでなく「鎧」としたところが、この句の手柄です。「男子家を出れば七人の敵あり」。敵あれば当然鎧をまとわなくてはなりません。一日の戦を終えてハンガーに。ご苦労さん。せめていたわりのブラシなりとかけてやりましょうや。

（応募要領→56ページ）

【入選】▼

風に乗り孫の声らし草野球　（北海道・釧路まりも）岸本　照之

七曜のどれも働く父の靴　（青森県・五所川原）坂本　憲昭

どこにでも居る少年が他人を刺す　（青森県・弘前中央）高橋　敬

田の草は忍の一字で這って取る　（岩手県・水沢中央）千葉　章男

通夜の席見知らぬ人が仕切ってる　（岩手県・水沢中央）平澤　真樹

夏の夜のねずみ花火のような恋　（岩手県・水沢中央）石川　涼呼

花ことば萎れた頃に想い出す　（新潟県・見附）宇之津滋朗

スクラムを組んで橋梁作り上げ　（千葉県・流山）皆川　春安

冷や奴一丁だけのひとり酒　（千葉県・東庄）藤﨑　久男

里帰り逢うだけで良い温い友　（静岡県・大仁）山本　順平

故里の情けは井戸に浮いている　（福井県・敦賀みなと）田中　信幸

第三のビールで喉の渇きとめ　（大阪府・岸和田コスモス）薮野ケイ子

景色より土産のことが気にかかる　（島根県・松江湖城）長谷川　孝

合理化の修羅よロボット対ヒト科　（宮崎橋）井上　忠一

水不足ダムの故郷浮いてくる　（宮崎橋）甲斐　忠視

伝言板

■張晶絵画展のご案内

今月号「ライオンズ・ギャラリー」と「会員刊行物」に登場した張晶（福岡県・宗像ライオンズクラブ）の絵画展「大地 THE EARTH」が、十月四～十日、長崎市の長崎浜屋（長崎市浜町七・一一 TEL〇九五・八二四・三三二二）で開催されます。中国駐在長崎総領事館開館二十周年を記念して、新作約三十点を一堂に展覧します。チベット高原の風景が幻想的に、生命力あふれる力強さで描かれ、悠久の時の流れを感じさせる作品です。

クラブ会員刊行物

●大地 張晶作品集

著者／張晶（福岡県・宗像ライオンズクラブ）

29×29? 本文93ページ
非売品

絵画制作は大地との対話。シルクロード、チベットの壮大な風景を透明感あふれる油彩で表現した四十余作品。

●風 光と影 ボクの歩いた百六十カ国

著者／厚沢弘陳（東京関東ライオンズクラブ）発行／?クレオ（TEL〇三・三四六四・三〇二五）

著者が渡り歩いた百六十の国々で特に印象に残ったもの。永遠の思い出の写真集。

23×31? 本文116ページ
2,990円

訂正とお詫び

九月号「ライオンズ・ニュース・カセット」（21ページ）で世界のライオンズの集計年月は五月三十一日の、「クラブ・リポート」（22ページ）北海道・名寄ライオンズクラブの投稿者名は幸田和男の、「伝言板」（56ページ）で群馬県・高崎ニューセンチュリー・ライオンズクラブ主催のQSOパーティー終了時刻はUTC十二時の誤りでした。

お詫びして訂正致します。

ライオン誌投稿要領

カラー

■「MY BEST SHOT」62ページ

●応募資格：会員（ライオン、ライオネス、レオ）及びその家族でアマチュア。

●応募作品（題材は自由）プリント（サービス判～キャビネ判）、スライド(35ミリ以上)、データ（長辺1600ピクセル程度／JPEG最高画質）。一人5点まで。

●プリントは写真の裏に紙を貼り、スライドには必ずマウントをつけ、データはメールの添付書類で本文に、氏名、クラブ名、年齢、題名、撮影場所、撮影年月日、住所、電話番号を明記。返却希望の場合は、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手を貼り同封。締切：毎月15日。

■「ライオンズ・ギャラリー」63ページ

●会員及びその家族。プロ、アマ不問。

●応募作品：絵画、版画、工芸／題材は自由。作品のスライド・フィルムか、カラー・プリント（キャビネ判）。氏名、クラブ名、年齢、職種、作品のサイズ、題名を明記し、作品に関するエッセー、自評など（400字程度）、顔写真を添付。

■「こころのチキンスープ・ライオンズ編」60～61ページ

●応募資格：会員（ライオン、ライオネス、レオ）やそのご家族、クラブ事務局員など。

●ライオンズにまつわる感動的なエピソードの概略、あるいは1,200～2,000字程度の原稿。ストーリーは本誌ライターが書き下ろします。

本文

■「クラブ・リポート」22～26ページ

●ライオンズ、ライオネス、レオクラブ。

●アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。新聞記事は新聞名、掲載日を付記。関連写真があれば添付（返却希望の場合はその旨を明記）。

■「獅子吼」48～52ページ

●会員及びその家族によるエッセー、提言など。1600字程度。職種、年齢を明記。

●題字はハガキ程度の大きさ。

■「俳壇」「歌壇」「柳壇」53～55ページ

●会員及びその家族。

●一人ハガキ1枚に3句／首まで。締切：毎月15日。

■「リーダース・プラザ」56～57ページ

●クラブ会員刊行物：クラブ並びに会員が刊行された出版物を1部送付。

●伝言板：読者間の情報交換に。

●読者から：本誌への意見、感想など。

▼締切の記入のないコラムは随時受付。誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合あり。原則として原稿返却はなし。

▼住所、氏名、クラブ名を明記。文字原稿及びサービス・アクティビティはEメール投稿も可。

送り先：〒104-0045東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所（各コラムあてにお願いします）
ファクス：03-3546-2630
Eメール：edit@thelion.jp

読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。編集部

みんなで目指せプラス1

●八月号「国際会長メッセージ」を読ませて頂きました。今期のアショク・メータ国際会長の人格の素晴らしさが現れたメッセージだと思いました。「飛躍への情熱」をテーマに、発展への焦点はプラス1という会員増強に、意を強くしました。一人ならば何とか出来るのではないかと感じたからです。がんばりたいと思います。

大阪府・岸和田コスモス●須藤寿子

●八月号では、特に国際会長メッセージに感動致しました。新年度の出発、発展への焦点はプラス1。当クラブでも真剣に取り組んでいます。会員一人ひとりが飛躍への情熱を持ってがんばらなくてはと考えています。振る舞いでなく、繰り返しの慣習により、人は飛躍する。情熱と一貫性、そして実践を大切にまい進致す所存です。

福島県・田村●柳沼照栄

ライオンズに新風を

●九月号「新国際理事紹介」を拝見し、「壁を壊し新しい風を吹かせよう」という伏見龍、山田實紘両国際理事の考え方にたいへん共鳴した。現在のライオンズの組織では不要な役職が多過ぎる。昔からのしきたりは変えられないという観念があるが、今の時代、中間的な役柄は早く取っ払うべきだ。また、「ピックアップ／明日のライオンズを考える」も興味深かった。この種の記事は毎回でも掲載すべきだ。ライオンズクラブ活性化には若い力が絶対必要。文面にあるように、平均年齢が七十歳というようなクラブに若い人が入会するはずがない。それでも、ひとつ仕事終えて惰性で在籍している会員をどうやって活性化させ、いかにしてクラブに魅力を持たせ、若い人を取り込んでいけるかは大きな課題だ。

鳥取久松●岡村栄司

ライオンズの素晴らしさを実感！

●「まるごと香港国際大会」を嬉しく拝見しました。私もメンバー六人で初めて国際大会に参加させて頂きました。各国の方々にバッジ交換を申し込まれ、言葉が分からないまま、何とか笑顔を交わし合いました。また待ちに待ったインターナショナル・パレードの夜。日本は百二十二番目。暗くなる中、元気に行進する姿が見えてきて、思わず大きな声で声援をしました。男性は白いスポーティな出で立ち、女性は浴衣姿に日傘。とても素敵に行進しておられました。

大阪府・岸和田コスモス●八田章子

●「まるごと香港国際大会」は、たくさんの写真があって臨場感満点でした。香港は日本から近いこともありぜひ参加するつもりでしたが、体調をくずしてしまい行かれませんでした。そのためなおさら、この特集が印象に残ります。

徳島中央●鎌田一一

今こそ自由に好きなことを

●「獅子吼／社長還暦にて僧侶になる」を読んで、柚原康峰（広島県・呉ライオンズクラブ）の思い切った決断がうらやましい限りです。私も仕事を辞めて、むなしい生活を送っていましたが、見習ってがんばります。

宮城県・山元●大内宏之

解散の記事を見つけ、感無量

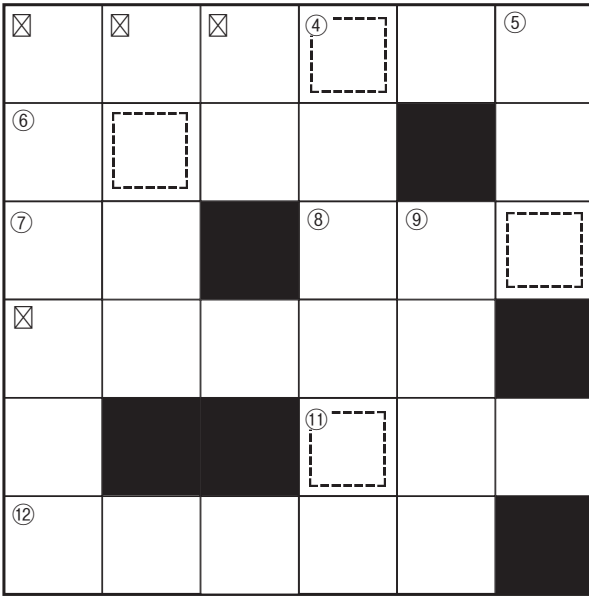
●我が家の居間に古びた花祭りの鬼面が掲げてある。もう三十年以上前、愛知県北設楽の東栄ライオンズクラブのチャーターナイトに出席して頂いた記念品だ。これを眺めるたびに遠い思い出に浸る。その東栄ライオンズクラブの解散が、『ライオン』誌八月号に載っていた。感無量。過疎の町の現実に思いを馳せる今日このごろである。元東栄ライオンズクラブメンバーの皆さんに幸多かれと祈る。

愛知県・高浜●深津守

元気なクラブもありますよ～

●最近は入会する人より退会する人の方が多いようですが、原因は不景気と少子高齢化なんですかね。しかし、私の所属するクラブは現在五十五人。平均年齢も五十歳くらいで非常に元気がよいクラブです。

広島県・府中中央●内海滋之

クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べかえてください。正解者の中から十人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は56ページ）。締切は二〇〇五年十月二十日。

☒	☒	☒	④[ ]		⑤
⑥	[ ]			■	
⑦		■	⑧	⑨	[ ]
☒					■
	■	■	⑪[ ]		
⑫					■

解答 □□□□

ヒント：ライオンズの基本です。

↓タテのカギ

☒今年のOSEALフォーラム開催地の名物です。

☒良き競争相手。

☒それを聞いて安心しました。

☒若いころ、これに悩まされた人も多いのでは？

⑤ウエストのこと。

☒お風呂の栓を抜くと発生します。

←ヨコのカギ

☒家柄や血筋のよい人を、こう呼ぶこともあります。

☒国民の祝日。

☒アフリカに生息する大型の草食動物。

☒薬を飲みやすくするために外側を覆う甘い殻のこと。

☒反省の意を表す髪型でもあります。

☒物を煮炊きするのに使っていました。

☒四十歳から五十五歳くらいの女性が、肩こりや腰痛になりやすい時期です。

■前回の答え

ソ	メ	イ	ヨ	[シ]	ノ
ウ	ル	カ	■	[ン]	■
ゴ	ビ	■	ジ	ガ	オ
[リ]	[ン]	シ	[ヨ]	ク	カ
カ	■	カ	[テ]	■	カ
イ	チ	ゴ	イ	チ	エ

答えは「リテンション」

第4回 ヴィンテージ 一七二七年の黄金

ドイツ・ワインを愛し続けた古賀守先生が、ご自身の年齢と体調を考慮され、「私のワイン人生の中で、まだ飲み残した宝のワインが数十本ある。一緒に飲んでくれるか」と、驚くようなお誘いをくださった。心からワインを愛する人たちが十人ほど集まって「古希（七十歳ぐらいのワイン）古賀守ワイン会」がスタートした。会場は、銀座のドイツ・レストラン、ワインケラーサワである。

このワイン会で、古賀先生のコレクションの最高の宝とされていた一七二七年の「リューデス・ハイマー」が、二〇〇〇年三月十八日に開けられることになった。

一七二七年といえば、フランス革命の六十二年前。バッハとヘンデルが活躍していた時代である。この年はワインの出来がとても良かったため、国王が子孫に残そうと樽詰めを命じたとのこと。千二百☒樽にオリーブ油を塗って密閉し、空気を完全に遮断して、ブレーメン市庁舎の地下に眠っていた。その樽から瓶詰めされたのが二十年前。一九八五年に、古賀先生がドイツの第一級十字勲章を叙勲された際にそれを譲られたという。

イラスト：吉田悦子

今ここで、夢のような話が実現しようとしている。ゼクト（ドイツのスパークリング・ワイン）から始まり、食事中には七種の銘酒の栓が開けられ、主役の「リューデス・ハイマー」は最後に登場した。全員に緊張感が走り、ワインに集中。透明感のある黄金色、大きく深呼吸してみた。グラスを手に取り、香りを嗅いでみる。まだ、香りはない。味は？ 震えるような思いで口に含む。何と、シェリー酒のような辛口である。ゆっくり、ゆっくり味わってみる。酸味が感じられてきた。そして香りが表れ始めた。どよめきと同時にだれもが息をのみ、ワインに語りかけていた。

三十分後、輝きはそのままに味と香りが消え、黄金のワインは酢酸に変わった。何と素晴らしいラインの黄金。高揚はなかなか収まらなかった。「見事なものでしょう」。満足そうな古賀先生の微笑みに、みんなが頷いた。

夢のような今宵に乾杯！ そして古賀先生のご長寿に乾杯！「ツンボール！（ドイツ語で乾杯）」の声が、レストランいっぱいに鳴り響いた。

■リューデス・ハイマー
ドイツ北部のワイン産地、ラインガウのリューデスハイム村で産出。リースリング種の白ワイン。リューデスハイムはブドウ畑の広がる小さな村だが、ライン川下りの起点として多くの観光客が訪れる。

■植村力子（千葉県・柏なの花ライオンズクラブ）

こころのチキンスープ●ライオンズ編

おばあちゃんの手は温かだった

構成／青山研

情けほど、人によい結果をもたらすものはない。

——テレンティウス——

私、高知桜ライオンズクラブのおばさんたちにお礼が言いたいの。

ある時、高知桜ライオンズクラブのおばさんたちが来て、「夏休みにご一緒に介護のボランティアしてみない」と言われたの。そうしたらね、隣の席の雅子ちゃんが、「やらない？」って言うので、なんでも体験だとか思って参加することにしたの。

聞いたらね、おばさんたち、もう九年も前からやってるって。だから、このボランティアやった先輩とかもいっぱいいるらしい。

行ったのは細木病院っていうところの、介護しなきゃいけないお年寄りの施設だったんだけど、別に、「夢の里」っていうお年寄りの施設に行った人もいる。どっちも、そのライオンズクラブの人がやってるんだって。

初めはね、なんか、すごく緊張しちゃった。だって、私って、おじいちゃんとか、おばあちゃんとかいないでしょう。だから、おばあちゃんばかりいっぱいいるんで、何しゃべったらいいか分からないの。黙ってると、何かおかしいから、それで必死になんかしゃべろうとしたの。そしたら「食べ物は、何が好きですか」って聞いちゃったの。勇気出して聞いた割にはぜんぜんたいしたことない質問で、情けなかった。

それでも、これで会話が出来るかなと思った。ところが、そのおばあちゃんの言ってることが、なに言ってるのか聞き取れないし、なにを言いたいのかも分からないのよね。介護の人が、お年寄りに目線合わせて、口元に耳を寄せて聞いてごらんって言うのでやったけど、中腰で聞くのってつらいんで驚いたわ。

それよりも驚いたのは、食事の時間になって、ごはんが来たのよ。そのおばあちゃんのごはんはね、おかゆと、おかずは全部混ぜてすりつぶしたもの。スプーンで食べるんだよ。何が好きですかもなにもないんだよね。おせんべいが好きでもパ

イラスト／吉田悦子

リンとかって食べられないのよ。私はなんて馬鹿なこと聞いたのかって、心の中でおばあちゃんに謝ったの。

別のおばあちゃんは、いつもニコニコしている人でね、笑うと目の黒いとこがなくなるくらいの笑顔で、私も負けないぞって、笑顔になったの。笑うのって、あれは、顔が笑ってると、気持ちもニコニコしちゃうよね。おばあちゃんから教えてもらった感じ。

みんなで歌を歌う時間もあったよ。私と一緒のおばあちゃんは、初めつまらなさそうにして、あまり歌ってくれなかったの。私はね、いろいろすまないと思ってたから、一生懸命に歌って、手で、おばあちゃんの腕をポンポンってリズムとってあげてたの。そうしたら、おばあちゃん、だんだん顔色がぱあっと明るくなってね、大きな声で、歌ってくれたんだよ。うれしかったなあ。ほんとにうれしかった。おばあちゃんに気持ちが通じたんだと思ったら、なんでか涙が出てきちゃった。

別のおばあちゃんは、昔、学校の先生してた人で、その人は、昔起こった繁藤の土砂崩れの話をしてくれた。三十三年も前に起こった話なの。三十三年も前って言ったら、うちのお母さんが小学校の時だよね。土佐山田町の繁藤って所で山崩れがあったんだって。そこは高知の中でも特に雨の多い所で、その山崩れで六十人もの人が死んだんだって。おばあちゃん、そこの学校の先生だったのかな。それで、おばあちゃんは、

「こんなこと人に頼むのは初めてやけど、いつか機会があったら、繁藤へ行って、自分の分も亡くなった人たちに手を合わせてきてほしい」

と言ってくれたのよ。なんでか、すっごくうれしかった。いつか絶対、繁藤へ行っておばあちゃんの分まで手を合わせてこようと思う。そのおばあちゃんは、私が帰らなければならなくなった時に涙を流して、お別れの歌を歌ってくれたの。私も泣いちゃった。仕方ないわよ、涙が勝手に出るんだから。もっともっと一緒にいたいと思った。

私は、おばあちゃんたちのことなんにも知らなかった。でも、おばあちゃんの後ろには長い長い素敵な人生があるってこと、分かったよ。こんな素晴らしい経験が出来る機会を与えてくれた、高知桜ライオンズクラブのおばさんたち、ありがとうございました。

また来年も参加します。絶対に！

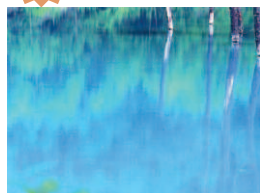
MY BEST SHOT

選：河相正名（日本写真家協会会員）

田尾忠士
愛媛県新居浜ひうち
［万灯祭］

●選評

万灯は日本の夏の行事。日本人のこころに焼き付いた風物詩となっている。空にかすかに明かりが残る薄暮の時間帯を使い、万灯をローアングルからワイドレンズで狙い、また左下から画面全体に放射状に配した見事なフレーミングで奥行きと立体感を出している。ブルーとオレンジの２色に色数を少なくしたのも成功している。

優秀作

河野政雄　北海道帯広平原
［青沼の印象］

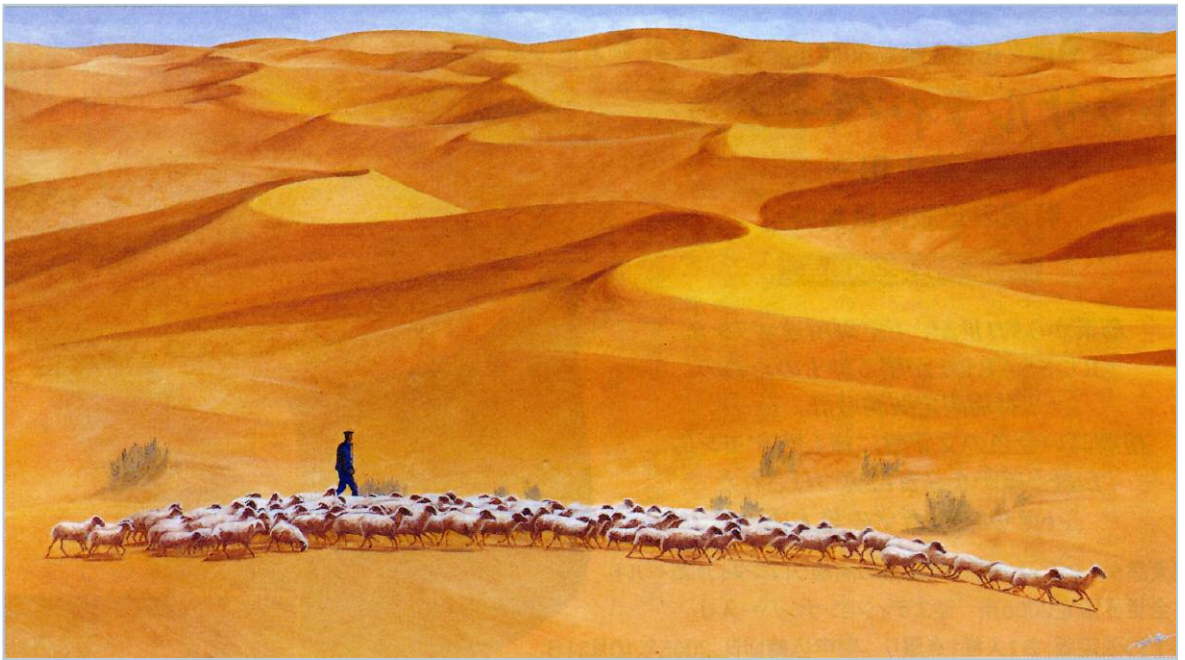
安藤正一　愛知県豊田
［憩う］

菊野善之助　愛媛県松山
［一休み］

藤根秀夫　愛知県豊田
［フレンドシップ］

横内孟　山梨県南アルプス［早春の燧ヶ岳］
木村文丸　青森県弘前［不安］
露木義光　静岡県沼津［初夏の頃］
重藤一美　広島県甲山［芙蓉］
上野春夫　広島県三原［ハス］

全作品は国際協会公式ウェブサイトでご覧頂けます。 http://www.lionsclubs.org/JA/TheLion/MBS/index.html

LIONS GALLERY

［放牧人—タクラマカン砂漠］油絵　M20号

今年、NHKの「新シルクロード」という番組が評判になっています。

一九八八年、私が初めてシルクロードを旅したのは、単に歴史や地理が好きだったからですが、それ以来、病みつきになっています。

来日前、日本人がこんなに「シルクロード好き」とは知りませんでした。個展を開いた時、たくさんの日本の友人から、二十年前に放送されたNHKの「シルクロード」の話を聞き、日本人の中国の歴史と文化に対する愛着と敬意に感動しました。

張晶
福岡県・宗像ライオンズクラブ
画家

「放牧人—タクラマカン砂漠」は、一昨年、この砂漠を縦断した際、その広大さに感動して生まれました。

砂漠に生きる人々は、いまだに何千年前の生活を守り、牛や羊を放牧しています。砂漠には、必ずオアシスがあるので、それが可能なのです。

シルクロードの魅力は、大自然だけでなく、人と大自然の調和にあるのです。　（ちょう　しょう・47歳）

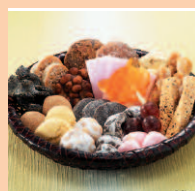
■56ページに個展の案内があります。

読者プレゼント

EDITOR'S ROOM

■宮城・仙台の特産品を仙台フォーラム会場でプレゼント

第四十四回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム会場で、フォーラム登録者を対象にプレゼント抽選会を行います。十月九日九時～十五時、仙台国際センターのライオン誌日本語版ブースにて。プレゼントは、フォーラム組織委員会から、豊かな味と香り、粘りと光沢が特徴の宮城県登米の特産米「ひとめぼれ（五㎏）」が五人。また、ライオン誌日本語版委員会から、江戸時代から仙台特産として知られる張り子の「松川だるま」、藩政時代に下級武士の手内職として作られ始めた「仙台張子」の来年の干支・戌、仙台発祥の「牛たん焼き」、枝豆餡の「ずんだ餅」、懐かしくて素朴な味わいの「駄菓子セット」を計五十人（品物と当選者数は変更の可能性があります）。申し込みと抽選、品物の贈呈はすべて会場で行います。

フォーラム参加の折には、ぜひライオン誌のブースにもお運びください。

■美術展チケットを二十人の読者に

十月一日から十二月四日まで東京の世田谷美術館で開催される「イスラム美術展　宮殿とモスクの至宝　V&A美術館所蔵」と、十月四日から十二月四日まで東京国立博物館・表慶館で開催される「特別展　華麗なる伊万里、雅の京焼」のチケット（二枚一組）が各十人の読者にプレゼントされます。「イスラム美術展」は、東西交流の要にあって豊かな発展を遂げてきたイスラム世界の美術の概観を、世界屈指のコレクションを誇るヴィクトリア・アンド・アルバート美術館（ロンドン）の所蔵品によって紹介。「華麗なる伊万里…」では、日本陶磁史で最も華やかな時代・江戸時代にあって、特に多彩な作品を生み出した肥前の伊万里と京都の京焼に焦点を当てます。

エナメル金彩装飾モスクランプ　制作地:エジプトまたはシリア/1347-61年/高さ35.2cm©V&A Images/Victoria and Albert Museum

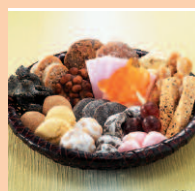
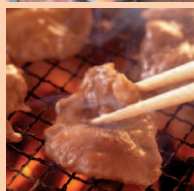
染付吹墨月兎図皿　東京国立博物館蔵

プレゼント応募要項

はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、クラブ名と「イスラム」「伊万里」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は10月末日。応募多数の場合は抽選となります。

宮城県の特産品はフォーラム会場にて受け付け、抽選、その場で贈呈。

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045
東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階

ウェブサイトからの応募
www.lionsclubs.org/JA/content/thelion_present_form.html

次号予告

国際会長公式訪問

アショク・メータ国際会長が九月二十九日に来日、国内四カ所で公式訪問を行い、仙台フォーラムにも出席する。

THEME 仙台フォーラム

十月七～十日、宮城県仙台市で開催される第四十四回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム。東洋・東南アジア地域のライオン約一万五千人が集結する。パレードや市民参加のシンポジウム、会員参加型のミニ・フォーラムなど、これまでになかった革新的なフォーラムとなる予感がする。

ROAR・ローア ──まるごと333複合地区

十一月号は333複合地区特集。「ヘッドライン」は、茨城県・常陸小川ライオンズクラブの霞ケ浦再生を目指したアサザの定植事業。「ふるさと探訪」は矢切の渡しで知られる江戸川を挟んで東京都と埼玉県に接する千葉県松戸市を訪ねる。古くは水戸街道の宿場町として栄え、現在は東京のベッドタウンとして都市化が進んでいる。古くから夏の季語として定着してきた白玉粉の産地であり、また二十世紀梨が生まれた地としても知られている。

Pick Up 新世紀ライオンズクラブ

332複合地区（東北地方）内三つの新世紀クラブ会長による鼎談。

編集室

今年度の編集長計画

ライオン誌
日本語版編集長
◉
中田勝昭

『ライオン』誌日本語版は一九五八年の創刊以来、ライオンズクラブ国際協会の公式機関誌として「国際理事会方針」、「ライオン誌日本語版委員会方針」を基本に編集されて参りました。

今年度は昨年に引き続き石橋国際理事、新任の伏見、山田両国際理事のご指導を頂きながら、既に八月号で紹介したアショク・メータ国際会長のテーマ「飛躍への情熱」と目標を、誌面を通じて浸透させることを念頭に計画致しました。

☒毎号の特集である「ＴＨＥＭＥ」は『ライオン』誌の最重要コラムの一つで、国際協会の方針を正確に分かりやすく伝え、これからのクラブ活動の指針を示すページでもあり、今後の活動方針を探れるテーマを取り上げたい。中でも国際会長の目標、今年度から始まる視力ファーストⅡキャンペーン、ライオンズ・クエスト、会員維持増強のミッション30などを中心にしていく。

☒十月七日～十日、仙台市で開かれる第四十四回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラムで、ライオン誌日本語版委員会はパネル・ディスカッション「明日のライオンズを考える」をミニ・フォーラムとして開催する。その成功を期すると共に、そこで議論された内容を誌面に取り上げ、今後のライオンズ発展の起爆剤としたい。また、当委員会で後援する他のミニ・フォーラム（ＩＴ、シニアクラブ、女性会員、ライオンズ・クエスト）に関しても、取材を行い誌面で紹介する。

☒二〇〇三年七月号からスタートした「ＲＯＡＲ」は、各地区・複合地区の協力を得て、その地域の特色あるライオンズ活動を紹介している。マンネリ化しないよう企画を常に見直しながら、今後更にこれを充実させていきたい。また、表紙や「ふるさと探訪」も、取材等に会員がかかわれる企画を考えていきたい。

☒二〇〇五年一月号からスタートした「ＰＩＣＫ ＵＰ」は各委員が担当し、実際に取材する企画であり、今年度も積極的に推進していく。

☒良質な広告を継続的に確保出来るよう更に努力したい。

以上を実行することにより読者の皆様からご意見を頂きながら、活用される『ライオン』誌となるよう努力する所存です。